

2022 年度 「ひょうご産官学連携協議会」総会
「第 2 回コンソーシアム担当者連絡会」
議事次第

日 時： 2022 年 10 月 25 日(火) 15 時 00 分～16 時 00 分(予定)
会 場： オンライン会議
出席者： 兵庫県総務部教育課
兵庫県商工会連合会
兵庫県中小企業家同友会
兵庫県中小企業団体中央会
大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校(タイプ3プラットフォーム型申請責任者、
コンソ担当者、企画運営委員会委員)

【審議事項】

- 1 号議案) 令和 4 年度 私立大学等改革総合支援事業 タイプ3プラットフォーム型
の申請について (資料 1)

【報告事項】

1. 2022 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校学生(2022年度入学生)対象
薬物意識調査 (資料 2)
2. 大学コンソーシアムひょうご神戸 緊急時連絡・連携体制図について (資料 3)
3. 災害救済ボランティア活動支援関係団体連絡会議について (資料 4)

【配布資料】

資料 1-1 令和 4 年度私立大学等改革総合支援事業申請について
資料 1-2 タイプ 3PF 型提出資料① 体制概要と中長期計画評価
資料 1-3 タイプ 3PF 型提出資料② 調査票、PF 参画団体一覧、意見書
資料 2-1 2022 年度 大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校学生(2022年度入学生)対象
薬物意識調査
資料 2-2 共同 IR の実施結果の地方自治体及び地元産業界等と共有及び改善の協議等
について
資料 3-1 大学コンソーシアムひょうご神戸 緊急時連絡・連携体制図について
資料 3-2 リスクに関する情報連絡会の設立について
資料 4 災害救済ボランティア活動支援関係団体連絡会議関連資料

以 上

**令和4年度
私立大学等改革総合支援事業 タイプ3について**

令和4年度申請に際して

1) 基本的な考え方

- ・ひょうご産官学連携協議会のプラットフォームをベースとし「中長期計画Ⅱ」を継続して遂行する。

2) 令和4年度の方針

- ・昨年度に引き続き、「タイプ3プラットフォーム型」での申請承認を行う。
- ・「地域連携型」への個別申請は、加盟校の独自判断に委ねる。
- ・取りまとめ校 甲南大学 (理事長校にて対応)

3) 申請に向けたスケジュール (詳細案 次ページ)

- ・調査開示：2022年 7月22日
- ・提出期限：2022年 10月31日
- ・採択公表：2023年 2月予定

令和4年度申請スケジュール

		7月	8月	9月	10月
私学事業団					受理
大学 コンソ ひょうご 神戸	取りまとめ校 (事務局)	7/22 調査票開示	申請書類作成		10月末 申請提出
	企画運営 委員会	7/29 第4回 方向性/スケジュール	8/23 第5回内容検討	9/30 第6回内容確認	
	理事会		8/26~9/1 第3回申請報告 メール審議		10/17 第4回 最終承認
	加盟校			9/2~9/9 申請承認 レター発信	
	事業委員会			9/12~9/22 中長期計画 自己評価	
	個別申請校			9/9 個別申請校 決定	9/14 個別申請校 説明会
兵庫県			連携協定確認 (今期改定なし)		
ひょうご産官学連携 協議会				9/12~22 協議会メール審議	10/25 協議会 申請承認

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業の主な変更点について

【主な変更点】

- 令和3年度において実施率の高かった設問等について、配点の見直し、内容や選択肢の高度化あるいは廃止
- 「地域の声を把握する取組」とする新規設問を設定（共通設問⑫）
- 採択校の固定化を緩和し、昨年度からの伸び率を評価する設問を導入

設問数／配点	令和3年度	令和4年度
タイプ1	32問／96点	32問／95点
タイプ2	16問／53点	20問／61点
タイプ3 (地域連携)	20問／53点	21問／53点
タイプ3 (PF)	(共通) 26問／70点 (個別) 20問／47点	(共通) 25問／64点 (個別) 21問／48点
タイプ4	18問／58点	20問／59点

共通設問における加点及び今後の課題

【新たに加点が可能な共通設問】

項目	求められる要件	昨年	見込	加点要素
地域におけるリスクマネジメント体制	大学等や地方自治体、産業界等が連携して、地域における様々なリスク（例：災害、事件・事故、大学等の経営破たん等）に対するリスクマネジメント体制（例：マニュアル、定期的評価等）がPFとして構築できていること。	0	3	緊急時連絡・連携体制図を作成
人事交流の実施	地方自治体（又は産業界）と大学間及びPF参画大学等の間で企画又は実施している。	2	4	PF参画大学間の非常勤講師の人事交流の追加
共同研究の実施	地方自治体（又は産業界）と共同研究を実施している。	2	3	神戸大学と兵庫県との共同研究追加
共同IRの実施	1.共同でIRを実施し、結果を地方自治体及び地元産業界等と共有及び議論等を行っている。 2.共同でIRを実施している。	2	3	行政及び地元産業界との共有及び協議書の追加
就職促進の取組の実施	PF参画大学等の7割以上の大学が参画して実施した。	1	2	キャリア委員会担当者、就職支援担当者、キャリア事業参加大学一覧などで7割カバー
合計		7	15	

【今後の課題】

- 地方自治体の長が定期的に参画する協議体制の構築とPF運営そのものに対する金銭的な支援
- PF参画している私立大学の7割が個別設問への申請
- PF参画の複数の大学が奨学金制度を設けて、PF参画大学の学生に対して就学を経済的に支援する取組
- PF参画大学等の間で、大学事務の共同実施
(500万円以上の備品の共同購入又は業務システムの共同開発、導入。)

昨年度より加点が可能な設問が増加している一方、毎年加点できない項目への対応が必要

私立大学等改革総合支援事業への申請状況

		2017年度 (平成29年)	2018年度 (平成30年)	2019年度 (令和元年)	2020年度 (令和2年)	2021年度 (令和3年)	2022年度 (令和4年)	
私立大学等改革総合支援事業		176億円	131億円	147億円	114億円	110億円	112億円	
申請タイプ		タイプ5 都市型	タイプ5 発展型I	タイプ3 プラットフォーム型 (都市型)				
共通設問	設問数	27	30	30+4 (加点項目)	34	26	25	
	満点	84	74	76	78	70	64	
	選定条件	点数	56	50	48	54	48	—
		%	67%	68%	63%	69%	69%	—
	ひょうご産官学連携協議会	ひょうごPF	66	54	57	57	54	55
		%	79%	73%	75%	73%	77%	86%
個別設問	設問数	23	24	22	22	20	21	
	満点	54	50	50	50	47	48	
	選定条件	点数	—	17	17	19	23	—
		%	—	34%	34%	38%	49%	—
	ひょうご産官学連携協議会	個別申請校	14校	19校	7校	8校	9校	9校
		採択校	14校	5校	5校	4校	4校	—

前年比9% UP

様式1) プラットフォームの連携体制・中長期計画の概要図（1ページ以内）※全てのプラットフォームが記入

○現状・課題、ビジョン・目標（数値目標含む）、連携体制図（協議体制含む）、取組の抜粋等により、プラットフォームの全体像がわかるように作成してください。

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸 中長期計画Ⅱ期 基本方針・概要図

【基本方針】

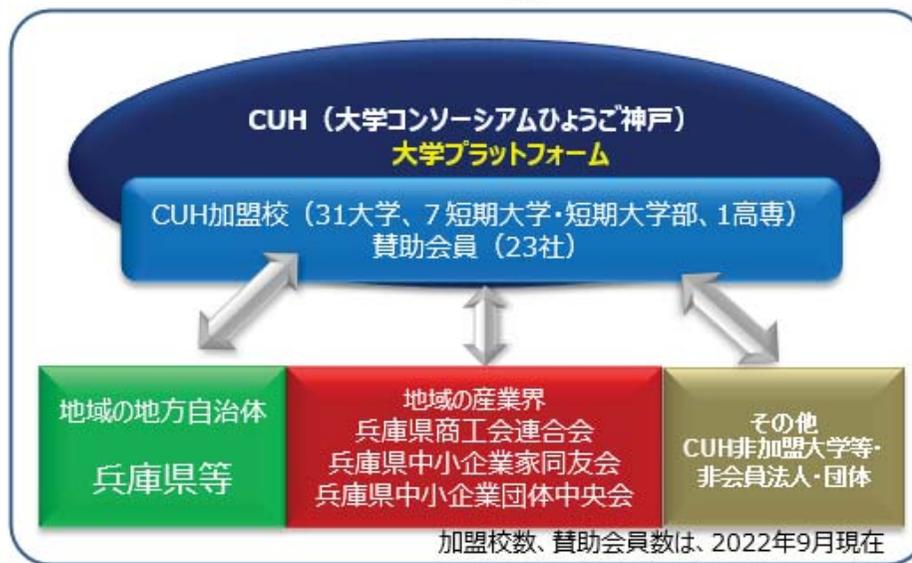
一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸の中長期計画Ⅰ期（2017年4月1日～2022年3月31日）における取組内容とその成果を発展的に継承して、中長期計画Ⅱ期（2022年4月1日～2027年3月31日）を策定する。

さらに、今後も想定される災害やコロナ禍における社会環境の変化への迅速な対応、人口減少社会・少子超高齢化社会、18歳人口の減少における大学をめぐる状況にも留意し、大学単独で取り組むには困難な課題について、大学プラットフォームの多角的な資源を活用して取り組む。大学間連携・産官学連携での人的交流ならびに人材育成、加盟校の多角的な教育活動に寄与する計画とする。

【ビジョン・目標】 大学間連携・産官学連携で「人がつながり、多様な学びを共創する“ひょうご神戸”」

- ・自治体、産業界とともに、「若者が育ち、活躍する県」であることのメッセージを発する。
- ・人生100年時代を迎え、多様な学びを提供する取組を通じて、地域と大学の魅力を県内外に発信する。
- ・大学間連携組織の特徴を生かした産官学連携のあり方として、「人」を繋ぐ、「組織」を繋ぐ、「情報」を集約できる活動を展開する。

プラットフォーム：ひょうご産官学連携協議会



【取組みの概要】

1. 地域の活性化に資する人材育成のための連携
 - ① 地域の活性化のための県内企業就職率の向上
(加盟校学生と県内企業とのマッチングに向けた連携)
 - ② 県内大学と高校間の連携による円滑な高大接続
 - ③ 大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進
2. “ひょうご神戸”の国際性を生かしたグローバル教育支援
 - ④ 外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進
 - ⑤ 外国人留学生と日本人学生等の交流促進
3. 県内大学の教育・研究の質を高める多角的学びの提供
 - ⑥ 大学教職員の研修機会の提供と交流の促進
 - ⑦ 大学間連携による多様な教育ニーズへの対応
 - ⑧ 県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進
4. 県内大学が活性化する大学間連携組織としての運営体制の構築
 - ⑨ 大学資源を活用する地域プラットフォームの形成
 - ⑩ 県内大学が活性化する事業運営体制の整備

参考:大学コンソーシアムひょうご神戸 ホームページ_ <http://www.consortium-hyogo.jp/sankangaku/index.html>

様式2) 中長期計画に対する自己評価 (1ページ以内) ※計画策定から1年以上のプラットフォームのみ記入	
全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
A	
評価理由	<p>当プラットフォーム（「ひょうご産官学連携協議会」以下、「当協議会」という。）構成メンバーのうち、大学のプラットフォームである一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸（以下、「当コンソ」という。）においては、加盟校は39大学等となり、県下52大学等の内75%が加盟となった。</p> <p>当協議会では、中長期計画Ⅱ期において10課題を設定し、課題を解決するために18の取組を計画・実施している。2022年9月末日現在までの実施状況について、S評価：4取組、A評価：14取組、B評価：0取組、C、D評価はなし、評価外：なしと評価した。</p> <p>2022年度は、昨年度と同様に新型コロナウイルス感染症の影響を受けながらも、担当委員会や参加学生とともに知恵を出し合い、オンラインをメインに適宜対面でプログラムを実施するなど、当初の事業計画をほぼ実施している。その結果、全体としては5年間の中長期計画Ⅱ期の初年度として課題解決に向けて着実に実行しており、目標に対し十分な成果が見込めるとの判断でA評価とした。</p> <p>各取組について、当協議会の評価及び改善の手順に則り、次年度に向けて適宜見直しを行い、中長期計画Ⅱ期で策定した各課題の解決のため、地域の自治体（兵庫県）との連携強化、及び当コンソの賛助会員の増加を含めた地域の産業界との更なる連携強化に取り組む。</p>
評価に関する備考 (考慮すべき事項)	
<p>当協議会では、中長期計画Ⅱ期に策定した各課題を当コンソの各事業委員会にて分担して実施しているため、課題の解決に向けて各事業委員会が情報共有し、連携を密にして進めることが重要である。このことを踏まえ、昨年度から引き続き事業委員会体制の強化について、当コンソの理事会を中心に検討を進めている。</p> <p>現在の中長期計画Ⅱ期の初年度に当たる今年度は、昨年度からの懸案事項であった地域のリスクマネジメント体制の構築について、年度当初より鋭意検討進めてきた。さらに、前年度に引き続き、今年度も地方自治体（兵庫県）との連携強化、及び当コンソの賛助会員の増加を含めた地域の産業界との更なる連携強化に取り組む。</p>	

様式3) 達成目標・活動指標等(おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
①地域の活性化のための県内企業就職率の向上	<p>【取組1の目標】 本プログラムへの参加を通じて兵庫県内企業理解が深まったことを実感する学生の割合： 参加学生の70%以上</p>	<p>【取組1】大学キャリアセンターと連携した県内大学生の地元就職促進プロジェクト 兵庫県の年齢別転出超過で最も多いのは、大学卒業・就職を契機とした若者であり、県内大学卒業者の『県内企業就職率』は、3割弱に過ぎず、7割以上が県外に本社のある企業に就職している。その要因の一つとして、大学生の県内企業への理解不足があると考えられる。県内大学卒業者の地元への就職について、大学側と企業側が相互理解を深める機会を提供する。地元企業と加盟校が連携することで、若者のキャリア形成の支援を充実させ、地域の活性化を実現する。</p> <p>①大学キャリアセンター教職員に対する県内企業の理解促進に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合同企業説明会 ・企業とキャリアセンターとの意見交換会 ・魅力ある県内中小企業訪問 <p>②大学生に対する県内企業の理解促進に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経営者による職業観形成プログラム ・若手社員による学生啓発プログラム 	<p>【取組1の活動指標】 参加者学生数：450名以上/年 参加教職員数：50名以上/年</p>	<p>※県内企業就職率2021(R3) 年度実績:29.4% 県内企業就職率の向上のため、第一段階の取り組みとして、当協議会加盟校教職員及び学生に対する県内企業の理解促進に向けた取り組みを以下の通り実施した。</p> <p>■実施プログラム</p> <p>2021年度 参加者数：1524名 参加学生数：811名 参加教職員数：111名 (県内企業理解が深まった割合77%)</p> <p>2022年度 参加者数：97名 参加学生数：60名 参加教職員数：3名 (県内企業理解が深まった割合76%)</p> <p>【取組1】</p> <p>① 大学キャリアセンター教職員向け</p> <p>●合同企業説明会 「兵庫県中小企業家同友会会員企業との交流会」2022/3/4 参加教職員数：9校9名 参加企業数：45社</p> <p>●意見交換会</p> <p>1.「企業と学校法人との就職情報交換会 in Kobe」2021/10/13 参加教職員数：17校22名 参加企業数：60社85名</p> <p>2.「淡路商工会会員企業とキャリアセンター対象の意見交換会」 2021/12/16 参加教職員数：7校6名 参加企業数：9社10名 行政・経済団体2団体6名</p> <p>3.「丹波地域企業と大学等との就職情報交換会」2022/2/21</p>	S

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				参加教職員数：16校16名 参加企業数：16社16名 4. 「兵庫の企業セレクション参加企業との名刺交換会2022」（神戸新聞）2022/6/28 参加教職員数：3校3名 参加企業数：10社20名 行政・経済団体：1団体1名 ●魅力ある県内中小企業訪問 →動画制作に変更 1. 「県内先端産業・科学技術施設および企業動画作成」（播磨編） ・キャタピラージャパン合同会社 ・マルイ鍍金工業株式会社 ・田中酒造場 参加学生数：3校9名 動画公開日：2022/3/2 動画閲覧数：421回 2. 「兵庫県内企業魅力発見動画作成」（但馬編） 参加学生数：2校6名 動画公開日：2022/3/11 動画閲覧数：232回 ② 大学生に対する取り組み ●大学生との意見交換会（企業（社長）から学ぶ研修会） 1. 「社会人の先輩との交流会」もやもやしている人のお悩み大相談会 2021/11/25 参加学生数：26校47名 参加企業数：12社12名 参加団体数：2団体2名 参加教職員数：1校1名 2. 「オンライン座談会」2022/1/22 参加学生数：16校114名 参加企業数：17社56名 参加教職員数：2大学4名 3. 「グローバルキャリアのススメ世界へ羽ばたこう。」2022/2/17	

様式3) 達成目標・活動指標等(おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				参加学生数：27名 参加企業数：8社9名 参加教職員数：1大学1名 4. 「兵庫の企業セレクション 2022+」(神戸新聞) 2022/6/28 参加学生数：13校25名 参加企業数：10社20名 5. 「マイクロインターンシップ」 2022/8/22～30日 計7回 参加学生数：15校36名 参加企業数：7社14名 ●企業(若手社員)から学ぶ研修会 1. 「合同模擬グループディスカッション 2023」 2022/1/22 参加学生数：18校70名 参加企業数：18社29名 2. 「面接大作戦」 2022/1/22 参加学生数：18校70名 参加企業数：18社29名	
	【取組2の目標】 情報公開企業・団体数120社以上	【取組2】 県内企業・団体等の魅力を情報発信地域の産業界の協力を得て県内企業や団体等の情報を収集し、大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開するとともに、兵庫県内の職業紹介サイト等との連携も図る。加えて、県内企業・団体等が求める人材について、情報交換会等を通じ、企業と大学間で人材ニーズと人材育成に関する情報の共有と相互理解を深める	【取組2の活動指標】 情報公開企業および留学生採用情報の追加：15社	「地元で働こう！兵庫県内企業情報サイト」に随時情報公開。 《掲載内容》業種、資本金、売上高、従業員数、本社所在地、事業内容、経営方針、特色・強み、採用情報(企業HPへリンク) 2021度新規情報掲載企業：27社 ※兵庫県内企業138社掲載中 10月より2022年度公開情報追加および新規企業掲載に向けてキャリアセンターと準備予定。	S

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
②県内大学と高等学校間の連携による円滑な高大接続	【取組1の目標】 各年参加校数 20校以上	【取組1】大学と高等学校の意見交換会の実施 兵庫県下の県下高等学校・教育委員会・加盟校との意見交換会の場である「ひょうご高等学校大学コンソーシアム」等において、兵庫県での高大連携・接続の具体的な課題についての定期的な意見交換会を行い、兵庫県下の高大連携を深める。	【取組1の活動指標】 意見交換会等の実施/年1回以上	●意見交換会等の実施 2021年度:3回 2022年度:1回 1.兵庫県内合同進学相談会 2021/9/18 25大学教職員25名 高校生他67名、計92名参加 2.兵庫県教育委員会との協議実施 2021/9/3 関西国際大学 神戸松蔭女子学院大学 2022/7/13 関西国際大学 神戸松蔭女子学院大学 甲南大学 3.ひょうご高等学校大学コンソーシアム 2021/12/9 15加盟校教職員20名、高校教員 17校21名、兵庫県教育委員会1 名、他3名、計45名参加	A
	【取組2の目標】 各年情報提供先 数 高等学校等 200か所以上	【取組2】加盟校の魅力を情報発信 加盟校に関する情報発信を強化し、加盟校への進学率の向上を図る。生徒が高校生から大学生、社会人になるまでの学びのルートマップを描けるような情報を発信する。	【取組2の活動指標】 大学コンソーシアムひょうご 神戸ホームページへの情報掲載・アンケート等の実施/年1回以上	●大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページへ各大学「オープンキャンパス情報」「学び発見マップ」を掲載し、情報提供。	A
③大学の枠を超えた学生間の交流・活動促進	【取組1の目標】 各年参加者数 50 名以上	【取組1】テーマ型の学生交流プロジェクトの実施 他大学や地域・企業との連携・協働によるプログラムへの参加は、学生に大きな教育効果があるとの考えから、大学の枠を超えたテーマを設定した学生交流や活動を促進するプロジェクトを実施する。主体性をもって活動に取り組む学生を支援する仕組みを作ることによって学生の成長の場とする。	【取組1の活動指標】 参加加盟校数 10校以上/年	●テーマ型の学生交流プロジェクト ・2021年度:参加者数227名 (11校・83名・その他144名) ・2022年度:参加者数125名(16 校・125名 1.「2021年度学生ボランティアネットワーク事業」 2021年7月～2022年3月(現地活動:宮城県・長野県・岡山県・熊本県 オンライン含む全23回) 参加加盟校数:10校参加者数:34 名(学生28名・教職員数:6名) 連携先:神戸市社会福祉協議会・日本財団ボランティアセンター 2.「キッズフェスティバル2021」 2021/12/5(動画配信に13団体、会場開催に8団体が参加)	

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				参加加盟校数:11校 参加者数:193名(学生43名、教職員6名、入場者子ども78名、一般66名) 3.「WILL BE プロジェクト」 1)「第21回 Kobe Love Port・みなとまつりで 楽天ヴィッセル神戸と イベントブースを企画しよう」 2022/7/17～18 参加加盟校数:11校 参加人数:学生52名 協力:神戸青年会議所・楽天ヴィッセル神戸 2)「第1回 Autumn Festival in KOBE でマルヤナギ小倉屋とイベントブースを企画しよう!!」 日時:2022/9/23 開催予定 協力:神戸青年会議所・マルヤナギ小倉屋 3)「ヴィクトリーナ姫路 スポーツビジネスコンテスト」 2022/8/8、9/24、12/17 参加加盟校数:10校 参加者数:73名(学生70人、教職員3人) 共催:ヴィクトリーナ姫路、立誠社 協賛:ナガセケムテックス	A
	【取組2の目標】 情報公開数 200取組以上	【取組2】加盟校・学生の地域活性化に関わる取組広報を実施する。 加盟校の学生が地域の活性化に関する取組事例を大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページに公開する。各年、継続的に事例紹介を重ねることにより、本計画期間内で200取組以上を紹介する。 地域で若者が活躍する姿を周知することにより、地域の活性化のための貢献活動に取り組む	【取組2の活動指標】 各加盟校からの情報提供/年1回以上 情報公開数40取組以上/年	【取組2】上記取組1と連動し ・Kiss FM KOBE 番組出演 2022/7/14/、9/22(各学生2名) ・SNSで各イベントでの取組を発信 ・大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページ上にて各加盟校から年1回以上の情報提供・情報公開数40取組掲載予定(2023/3/31まで)	A

様式3) 達成目標・活動指標等 (おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
④外国人留学生の受け入れ体制の強化・定着促進	【取組1の目標】 本プログラムへの参加を通じて日本企業・文化理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の70%以上	外国人留学生の受入体制の強化・定着促進 ・留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施 (ひょうご留学生インターンシップ) 個別大学では実施が困難な留学生に特化したインターンシップの機会提供を共同で実施し、留学生の県内企業等への就職意欲の向上を図る。参加留学生のニーズを勧奨のうえ、受入企業、団体等を決定する。	【取組1の活動指標】 各年参加者数 500 名以上	当協議会加盟校学生の日本企業・文化理解を深めるため、以下のプログラムを実施した。 2022 年度参加留学生数:8 校 43 名 (日本企業・文化理解が深まった割合:97%) 受入団体・企業数:22 ●実施プログラム 1.「ひょうご留学生インターンシップ」 ・日本語能力試験 N1 集中講座 ・推薦学生ガイダンス ・推薦学生と企業の交流会 ・推薦学生事前面談 ・オリエンテーション、事前研修 ・事前訪問 (7 月中旬～8 月中旬) ・企業・団体実習 (8 月～9 月中旬) ・事後研修、報告会	S
		・留学生向け就職支援・キャリア教育プログラムの実施 “ひょうご神戸” の国際性を生かしたグローバル人材育成を目指した事業を展開する。 プラットフォームを活用した留学生就職促進事業として、大学、行政、企業が連携し、新たなネットワークを構築することで留学生の受入環境づくりを促進し、卒業後の県内企業への就職の動機付けを図る。		2021 年度参加者数 : 1542 名 参加留学生数 : 1456 名 (日本企業・文化理解が深まった割合:91%) 2022 年度参加者数 : 1376 名 参加留学生数 : 450 名 (日本企業・文化理解が深まった割合:90%) ●大学生対象 1.合同企業説明会 「国際都市 Kobe で働こう! 外国人向け合同企業説明会」 2022/6/28 参加留学生数 : 848 名 参加企業数 : 34 社	

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				2.日本語能力試験 N1 集中講座 2022/6/4 参加留学生数:8校 57名 参加企業数:1社6名 3.ビジネス日本語講座 1)「インターンシップ修了生との懇談会」 2022/6/8 参加留学生数:8校 48名 2)「ビジネスマナー研修」 2022/6/25 参加留学生数:8校 38名 参加企業数:1社1名 3)「外国人留学生のためのオンライン就職セミナー」 2022/7/2 参加留学生数:5校 38名 参加企業数:3社 3名 参加教職員数:3校 5名 4.就職活動 Q&A 講座 1)「インターンシップ事後研修・報告会 2021」 2021/9/18 参加留学生数:9校 31名 2)「インターンシップガイダンス」 2022/6/8 参加留学生:8校 46名 3)「推薦学生と企業の交流会」 2022/6/11 参加留学生数:8校 43名 参加企業数:14社 23名 参加教職員数:4校 4名 4)先輩外国籍社員との交流会 2022/7/2 参加留学生数:5校 38名 参加企業数:3社 3名 参加教職員数:3校 5名	

様式3) 達成目標・活動指標等(おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				5)「道」を活かすパネディスカッション 2022/7/9 参加留学生数:9校40名 参加企業数:2社2名 参加教職員数:4校4名 6)兵庫県で活躍する外国人留学生動画 1)伊福精密株式会社 メーカー編 動画公開予定:9月末予定 2)株式会社パソナ編 サービス編 撮影9月予定 3)医療法人社団 星晶会 病院編 撮影9月予定	
⑤外国人留学生と日本人学生等の交流促進	【取組1の目標】 本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合:参加学生の80%以上(期間中2回測定)	【取組1】 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業の実施 兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業(日本学生支援機構委託事業)において、大学間連携による国際交流の拠点を、兵庫国際交流会館を起点に大学キャンパス外の地域社会に形成する事を推進する。留学生と日本人学生、地域の人々が学びあう多文化共生社会に向けた場を創造する。	【取組1の活動指標】 各年参加者 500名以上	【取組1】 当協議会加盟校学生の国際理解を深めるため、以下のプログラムを実施した。 2021年度:学生数481名 2022年度:学生数912名 国際理解が深まった割合 ・英語村 100% ・キャリアカフェ 92.9% 【取組1 事業概要】 ●外国人留学生の活用と相互理解・共生推進のための事業 181名 1. ファシリテーションプロジェクト145名(6/1-7/6、計6回) 2. 甲南女子大学生×留学生オンライン国際交流会(9/16,10/21予定) 3. 兵庫県立大学 ペチャクチャナイト(後期予定) ●高度外国人材としての留学生向けキャリアサポート 1. キャリアカフェNada Global Village (4/28:188名、6/7:74名、6/23:287名、7/4:78名) 2. Adjusting for job hunting	S

様式3) 達成目標・活動指標等(おおむね10頁以内) ※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				(11～12月予定) ●防災教育「防災セミナー」 (10～3月予定) ●地域連携プログラム 英語村：137名(7/2、8/2、8/9) ●留学生・国際交流情報の発信事業・支援者間ネットワークの体制整備 国際交流委員会「With コロナの留学について」アンケート実施予定	
	【取組2の目標】 本プログラムへの参加を通じて国際理解が深まったことを実感する学生の割合：参加学生の80%以上(期間中2回測定)	【取組2】 加盟校の国際交流プログラムとの連携促進 大学コンソーシアムひょうご神戸のネットワークを生かして、加盟校主催の国際交流イベントの情報を収集し、加盟校間の情報共有を行う。本計画期間内において、段階的に加盟校が主催する国際交流プログラムと連携することにより、大学の枠を超えた加盟校間の留学生・日本人学生等の交流を促進させる。	【取組2の活動指標】 プログラム数 10件以上	【取組2】 1. 模擬国連演習 8/6～12/3 2. 国際交流プログラム (医療検査・看護コース) コロナにより延期	A
⑥大学教職員の研修機会の提供と交流の促進	【取組1の目標】 各年セミナー数5件以上	【取組1】加盟校間でのFD・SDセミナーの公開 加盟校が自学で開講している多様な研修プログラムを加盟校に開放することにより、加盟校教職員に多様な研修・交流の機会を提供する。 教職員の資質向上を図るとともに教職員間のさらなる交流を促進する。	【取組1の活動指標】 参加者数100人以上/年	●加盟校が実施するFD・SDセミナーの公開 2021年度:15件、911名 2022年度:4件、327名 ●「大学運営」に関する科目の受講支援 2021年度後期講座受講数: 4校11名(当協議会加盟校) 2022年度後期講座受講数: 4校8名(当協議会加盟校)	A

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
	【取組2の目標】 各年参加者数 50名以上	【取組2】FD・SD情報交換会、セミナー等の開催 加盟校に有益な公開セミナーを実施することで、 教職員の資質向上を図るとともに教 職員間のさらなる交流を促進する。	【取組2の活動指標】 開催数：3回以上/年	●2021年度公開セミナー 2021年度：3回、127名 2022年度：1回、108名 ●「テーマ：オンライン授業の設計と BYODの活用を考える」2021/11/2 参加大学：13校、参加者数：61名 ●IR勉強会「IR企画『IR担当』に指 名されたら」2021/10/29・12/20 参加：加盟校15校 24名 ●IRセミナー 2022/2/22 「学生支援型IRの取組み」 「兵庫大学におけるIRの取組み」 参加：加盟校20校 42名 ●2022年度FD・SDトップセミナー 「テーマ：GIGAスクール構想がもた らす高等教育への影響」2022/8/3 参考：大学(加盟校)19校、(非加盟 校)32校、その他団体・企業4社 参加者数：108名	A
⑦大学間連携による多様な教育ニーズへの対応	【取組1の目標】 各年開放科目数 10科目以上	【取組1】単位互換事業の実施 加盟校学生に、幅広い科目の履修や学びの機会を 提供するため、兵庫県の地域特性や各大学の特徴 を活かした授業及び集中講義を中心とした単位互 換事業を実施する。	【取組1の活動指標】 送り出し校数 5校/年	●単位互換事業の実施 2021年度 開放科目数：11大学43科目 受講者：8大学29名 2022年度 開放科目数：15大学85科目 受講者：8大学44名（9月16日 現在）	A
	【取組2の目標】 各年プログラム 数 5件以上	【取組2】多様な学修機会の提供 加盟校に通う学生等に、多様な学修機会を提供す るため、本計画期間内において、段階的に加盟校 が実施する講座等を開放し、学びの機会を継続的 に提供する（ICTを活用したコンテンツ、専門領域 や分野横断型のプログラム等）。	【取組2の活動指標】 参加者数 50人以上/年	●多様な学修機会の提供 1)ICTを活用したコンテンツ 「大学 e ラーニング協議会共通基盤 教育システム」の試行運用： 2021年度：8校 2022年度：9校 2)公開講座 2021年度：2大学4講座 2022年度：4大学8講座 参加者計146名	A

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
⑧県内大学を活用した社会人の学びなおしの推進	【取組1の目標】 各年参加者数 50名以上	【取組1】リカレント教育の普及促進に向けた取組加盟校によるリカレント教育の推進・理解促進に向けたセミナー・情報交換会等を開催する。産官学で連携したリカレント教育推進に関するネットワークを構築する。	【取組1の活動指標】 大学・企業関係者による講演・意見交換会（年1回以上）	2021年度:2回・138名 2022年度:年度内に1回開催予定 ■「リカレントフォーラム 2021～大学と企業が連携したリカレント教育のあり方を考える」第1部:文科省・加盟校話題提供 2021/11/8(月)10:00～11:00 (参加者数:82名) ■「リカレントフォーラム vol.2“今の社会状況と大学の実践例から考える”大学と企業のプラットフォームで取り組むリカレント教育のあり方とは？」 2022/3/18(金)14:30～17:00	A
	【取組2の目標】 各年10校以上	【取組2】加盟校のリカレント教育に関する情報発信 大学コンソーシアムひょうご神戸のホームページで加盟校が開講するリカレント教育に関する取組情報を発信する。	【取組2の活動指標】 大学・企業関係者による講演・意見交換会（年1回以上）	■大学・企業関係者による講演・意見交換会 2021年度:2回・138名 2022年度:1回以上開催予定 ■「リカレントフォーラム 2021～大学と企業が連携したリカレント教育のあり方を考える」企業×大学意見交換会 2021/11/8(月)11:00～13:00(うち交流会:12:00～13:00) (参加者数:82名) ■「リカレントフォーラム vol.2“今の社会状況と大学の実践例から考える”大学と企業のプラットフォームで取り組むリカレント教育のあり方とは？」第3部・意見交換会 2022/3/18(金)14:30～17:00 (17:00～17:30 交流会) (参加者数:56名)	A

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
				<p>■大学コンソーシアムひょうご神戸ホームページ上「リカレントフェア 2021」サイトにて、通年で講座情報を発信。 2021年度:掲載数・13校 30講座 2022年度:掲載数 11校 29講座</p>	
⑨大学資源を活用する地域プラットフォームの形成	<p>【取組1の目標】 大学間連携の特徴を生かした地方自治体・企業・地域団体との連携の拡充</p>	<p>【取組1】 大学間・地方自治体・企業・地域団体との連携体制の構築 兵庫県下で大学間連携のプラットフォームとして、加盟校の大学資源を生かす運営体制を本計画期間内において、段階的に構築する。また、加盟校がすでに有している大学間連携・地域・地方自治体との連携体制の理解促進も図る。</p>	<p>【取組1の活動指標】 大学・企業関係者による意見交換会（年1回以上）</p>	<p>■ひょうご産官学連携協議会開催 目的;一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸、兵庫県、兵庫県商工会連合会、兵庫県中小企業家同友会、及び兵庫県中小企業団体中央会は、地域の高等教育の課題に関する中長期計画の実施にあたり、互いに連携・協力して中長期計画の実現に資するために協議会を設置している。なお、地域の声を把握する取組として、2021年12月10日にひょうご産官学連携協議会活動報告会を開催し、地域住民から意見をいただいた。さらに、大学コンソのHPで意見募集サイトを開設した。 開催実績;(1)2021年度:①2021/11/12、②2022/3/24日に開催した。 ■賛助会員と大学コンソーシアム加盟校代表者との懇親会 開催目的;大学コンソーシアムひょうご神戸の「賛助会員企業」と「加盟校」が交流・情報交換する機会を提供した。加盟校学長等大学関係者と企業等が参加し、産官学連携について活発に意見交換を行った。 開催実績;日時:2021/12/23日(木)18時～19時30分、場所:神戸ポートピアホテル 南館地下トパーズ、案内先:当コンソーシアム加盟校学長、賛助会員企業22社の代表者 参加者:合計62名:(内訳)・賛助会員企業16社26名、大学19校27名、行政1名、事務局職員8名</p>	A

様式3) 達成目標・活動指標等（おおむね10頁以内）※計画策定から1年未満のプラットフォームの場合は「課題」～「活動指標」欄までの記入					
題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価・備考
	【取組2の目標】 緊急時の情報共有・ネットワーク体制の構築	【取組2】緊急時の加盟校間の協力・情報提供体制の構築 感染症（新型コロナウイルス感染症等）や災害対応等、災害・緊急事態対応等の不測の事態に備えて、定期的に加盟校が蓄積する経験や知見の情報収集を行い、共有する。本計画期間内において、段階的に情報共有を重ねることにより、有事の際に速やかに情報共有・情報提供ができる体制の構築を目指す。	【取組2の活動指標】 大学・企業関係者による意見交換会（年1回以上）	■「リスクマネジメント体制について」の懇談を実施、「緊急時連絡・連携体制図」を作成。 ・「企画運営委員会」計6回 （2022/4/15、5/18、6/29、7/26、8/23、9/30） ・産業界へのヒアリング・意見交換 （2022/8/8、8/9）	A
⑩県内大学が活性化する事業運営体制の整備	【取組1の目標】 加盟校の共通課題に協働して取り組む事業運営体制の構築	【取組1】加盟校が活性化する事業運営体制の整備と推進 加盟校教職員が大学間連携活動に積極的に参画できる事業運営体制を本計画期間内において、段階的に検討・構築する。 同じ課題を有する加盟校による小グループで課題の共有、ICTの活用、プロジェクト型での事業推進等のニーズに合わせて、事業運営体制の整備に取り組む	【取組1の活動指標】 企画運営委員会等における懇談の実施（年10回以上）	●企画運営委員会 事業運営を円滑に推進するため、理事会の下に常設の企画運営委員会を設置し、中長期計画Ⅱ期、リスクマネジメント体制、事業運営体制の整備と推進、（文部科学省生涯学習推進課）リカレント教育等について懇談している。 開催実績；（1）2021年度①2021/9/27、②同年10/29、③同年11/17、④同年12/22、⑤2022/2/21 （2）2022年度⑥2022/4/15、⑦同年5/18、⑧同年6/29、⑨同年7/26、⑩同年8/23、⑪同年9/30	A

文 書 番 号
令和4年 月 日

文部科学省高等教育局

私学部長 森 晃 憲 殿

日本私立学校振興・共済事業団

理事長 福原 紀彦 殿

学 校 法 人 甲南学園

理 事 長 長坂 悦敬

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業に係る調査について(回答)

令和4年7月22日付け4文科高551号及び私振補第20号による標記調査依頼にあたり、以下の(1)～(2)について確認したうえで、下記及び別紙調査票のとおり回答します。

- (1) 全ての設問への回答について、要件を確認し、別紙 回答確認書を作成して提出します。
- (2) 回答内容の根拠となる資料を大学等で整備・保管しています。

法人番号	281006
学校法人名	甲南学園

		タイプ1	タイプ2	タイプ3	タイプ4
学校コード [*]	A01	▼	▼	「プラットフォーム型」 で申請する	▼
学 校 名	甲南大学				
学校コード [*]	▼	▼	▼	▼	▼
学 校 名					
学校コード [*]	▼	▼	▼	▼	▼
学 校 名					
学校コード [*]	▼	▼	▼	▼	▼
学 校 名					
学校コード [*]	▼	▼	▼	▼	▼
学 校 名					
学校コード [*]	▼	▼	▼	▼	▼
学 校 名					

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

各設問について、選択肢から該当するものを一つ選び、回答欄のプルダウン（▼）から選択肢の番号を選択してください。

【基礎要件】プラットフォーム構築に必要な体制の整備			
基礎要件	プラットフォーム構築に必要な体制を整備している。	回答	結果
1	整備している。	1	申請できません
2	整備していない。		
1. プラットフォーム体制の整備			
①	プラットフォーム参画大学等と、地方自治体との間で包括連携協定等を締結し、協議体制を構築していますか。	回答	得点
1	包括連携協定等を締結しており、地方自治体の長が定期的に参加する協議体制を構築している。	2	2
2	包括連携協定等を締結しており、地方自治体の担当者が年4回以上定期的に参加する協議体制を構築している。		
3	上記に該当しない。		
②	プラットフォーム参画大学等と、産業界等の間で包括連携協定等を締結し、協議体制を構築していますか。	回答	得点
1	包括連携協定等を締結しており、年2回以上定期的に参加する協議体制を構築している。	1	2
2	包括連携協定等を締結しており、年1回以上定期的に参加する協議体制を構築している。		
3	上記に該当しない。		
③	プラットフォームにおける協議体制の運営支援及びプラットフォームの中長期計画の実施を推進するため、基礎要件の意思決定体制や定期的な協議の実績とは別に、企画立案、連絡調整、進捗管理などを行う事務局体制を整備していますか。	回答	得点
1	複数の組織の構成員からなる常設の事務局を整備している。 または、複数の組織の構成員からなる委員会形式の事務局（月1回以上の開催）を整備している。	1	2
2	単独の組織の構成員からなる常設の事務局を整備している。 または、複数の組織の構成員からなる委員会形式の事務局（月1回未満の開催）を整備している。		
3	整備していない。		
④	プラットフォーム参画大学等の数は、以下のいずれに該当しますか。	回答	得点
1	都市型においては10校以上、地方型においては5校以上	1	3
2	都市型においては5～9校、地方型においては3～4校		
3	都市型においては4校以下、地方型においては2校		

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

⑤	特定の地域におけるプラットフォーム参画大学等の割合は、以下のいずれに該当しますか。	回答	得点
1	都市型においては70%以上、地方型においては80%以上	3点	1 3
2	都市型においては50%～69%、地方型においては60%～79%	2点	
3	都市型においては30%～49%、地方型においては40%～59%	1点	
4	都市型においては30%未満、地方型においては40%未満	0点	
⑥	地方自治体から、プラットフォームの運営に対する支援がありますか。	回答	得点
1	プラットフォームの運営そのものに対する支援及び個別の取組に対する支援の両方がある。	3点	3 1
2	プラットフォームの運営そのものに対する支援がある。	2点	
3	プラットフォームが実施する個別の取組に対する支援がある。	1点	
4	支援がない。	0点	
⑦	産業界等から、プラットフォームの運営に対する支援がありますか。	回答	得点
1	プラットフォームの運営そのものに対する支援及び個別の取組に対する支援の両方がある。	3点	1 3
2	プラットフォームの運営そのものに対する支援がある。	2点	
3	プラットフォームが実施する個別の取組に対する支援がある。	1点	
4	支援がない。	0点	
⑧	プラットフォームにおいて、特定の地域におけるリスクマネジメント体制を構築していますか。	回答	得点
1	構築している。	3点	1 3
2	構築していない。	0点	
⑨	広域を特定の地域としたプラットフォームですか。	回答	得点
1	該当する。	2点	1 2
2	該当しない。	0点	
⑩	プラットフォームに参画している全ての私立大学等が個別設問調査票を申請していますか。	回答	得点
1	申請している。	2点	2 0
2	申請していない大学等がある。	0点	

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

2. 中長期計画等の実行性

⑪	特定の地域における高等教育の各種の課題に対して、具体的な数値で設定された活動指標及び取組全体に係る成果としてのアウトカム指標を設定し、達成状況等を踏まえ検証及び取組の改善を行っていますか。	回答	得点
1	10種類以上の活動指標と、2種類以上のアウトカム指標を設定し、達成状況等を踏まえ検証・改善を行っている。	1	4
2	5～9種類の活動指標と、2種類以上のアウトカム指標を設定し、達成状況等を踏まえ検証・改善を行っている。		
3	10種類以上の活動指標と、2種類以上のアウトカム指標を設定している。		
4	5～9種類の活動指標と、2種類以上のアウトカム指標を設定している。		
5	上記のいずれにも該当しない。		
4点			
⑫	プラットフォームの活動等について、幅広い地域社会の意見を反映させるため、地域住民等からの意見募集等、地域の声を把握する取組を実施していますか。	回答	得点
1	実施している。	1	2
2	実施していない。		
2点			
0点			

3. 中長期計画に関する個別取組内容

⑬	プラットフォーム参画大学等の間で、以下の取組を実施していますか。 ア プラットフォーム参画大学等間で、授業科目を共同で開発し、開講。 イ 単位互換等の授業科目についてプラットフォーム大学等間共通のシラバスの作成。 ウ 単位互換等の授業を行う共同の施設等（教室を含む）の指定・設置。 エ プラットフォーム参画大学等間で共同利用するe-ラーニングシステムの導入。	回答	得点
1	4つ実施している。	1	4
2	3つ実施している。		
3	2つ実施している。		
4	1つ実施している。		
5	実施していない。		
4点			
3点			
2点			
1点			
0点			
⑭	プラットフォームにおいて、ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関することをテーマとした共同のFD又はSDを実施しましたか。	回答	得点
1	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関することをテーマとしたFD又はSDを実施した。	1	2
2	ICTを用いた同時双方向型の遠隔授業に関することをテーマとしていないが、FD又はSDを実施した。		
3	上記のいずれにも該当しない。		
2点			
1点			
0点			

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

⑮	プラットフォームにおいて、教職員の人事交流を企画又は実施していますか。	回答	得点
1	地方自治体（又は産業界等）と大学等の間、及びプラットフォーム参画大学等の間で企画又は実施している。	1	4
2	地方自治体（又は産業界等）と大学等の間で企画又は実施している。		
3	プラットフォーム参画大学等間で企画又は実施している。		
4	上記のいずれにも該当しない。		
⑯	プラットフォームにおいて、共同研究を実施していますか。	回答	得点
1	地方自治体（又は産業界等）と共同研究を実施している。	1	3
2	プラットフォーム参画大学等間で共同研究を実施している。		
3	上記のいずれにも該当しない。		
⑰	プラットフォーム参画大学等で施設・設備を共同で利用していますか。	回答	得点
1	共同利用している。	1	2
2	共同利用していない。		
⑱	プラットフォーム参画大学等において共同でIRを実施し、結果を地方自治体及び地元産業界等と共有及び改善の協議等を行っていますか。	回答	得点
1	共同でIRを実施し、結果を地方自治体及び地元産業界等と共有及び議論等を行っている。	1	3
2	共同でIRを実施している。		
3	実施していない。		
⑲	プラットフォーム参画大学等において、以下の学生募集活動等に係る取組を行っていますか。 ア 共同で高等学校、高校生、又はその保護者へのニーズ調査を実施している。 イ 共同の説明会又は高等学校訪問、及び共通のホームページ、パンフレット等による広報活動を行っている。 ウ 地域枠の奨学金の設定等、地域における学生の就学を経済的に支援する取組を行っている。	回答	得点
1	3つ実施している。	2	1
2	2つ実施している。		
3	上記のいずれにも該当しない。		

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

⑳	プラットフォームにおいて、特定の地域の教育支援活動を行っていますか。	回答	得点
1	半数以上の大学等が取組を実施した。	1点	1
2	上記に該当しない。	0点	
㉑	プラットフォームにおいて、共同の公開講座を実施しましたか。	回答	得点
1	10講座以上実施した。	2点	1
2	5～9講座実施した。	1点	
3	上記のいずれにも該当しない。	0点	
㉒	プラットフォームにおいて、社会人を対象としたキャリア形成等を目的とする共同プログラムを、産業界等と共同で企画し、複数のプラットフォーム参画大学等で実施していますか。	回答	得点
1	実施した。	2点	1
2	企画のみしている。	1点	
3	企画・実施いずれもしていない。	0点	
㉓	プラットフォームにおいて、特定の地域への就職を促進するための、地方自治体又は産業界等との共同の取組について企画又は実施していますか。	回答	得点
1	プラットフォーム参画大学等の7割以上の大学等が実施した。	2点	1
2	上記には当てはまらないが実施又は企画している。	1点	
3	企画・実施いずれもしていない。	0点	
㉔	プラットフォーム参画大学等の間で、大学事務の共同実施をしていますか。	回答	得点
1	実施している。	3点	2
2	実施していない。	0点	
㉕	プラットフォームにおいて、活動地域における高等教育のグランドデザインについて継続的な議論を行っていますか。	回答	得点
1	実施し、議論の取りまとめ等を一般に公表している。	2点	1
2	実施している。	1点	
3	実施していない。	0点	

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業調査票3

【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型：共通設問）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

申請取りまとめ校			
法人番号	学校コード	学校法人名	学 校 名
281006	A01	甲南学園	甲南大学

根拠資料・要件確認	回答	合計点
すべての設問について、要件を確認し、根拠資料を整備しましたか。	確認済	55点

調査票取りまとめ担当者		
所属部課名	氏名	電話番号
学長室	フリガナ オハシ ユタ	078-435-2663
	大橋 祐太	

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業プラットフォーム参画団体等一覧
【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型）】

1. プラットフォームの名称

・共通設問調査票で設定したプラットフォーム名を入力してください。

ひょうご産官学連携協議会

2. 活性化の対象として設定する「特定の地域」

- ・「特定の地域」として設定した、都道府県名や市区町村名を記入してください。
- ・市区町村名の場合は、そのあとに()をつけて都道府県名を記入してください。
- ・設定した「特定の地域」に応じて、都市型・地方型のいずれかを選択してください。

市区町村	①市区町村名（都道府県）	②市区町村名（都道府県）	③市区町村名（都道府県）	④市区町村名（都道府県）
	⑤市区町村名（都道府県）	⑥市区町村名（都道府県）	⑦市区町村名（都道府県）	⑧市区町村名（都道府県）
	⑨市区町村名（都道府県）	⑩市区町村名（都道府県）	⑪市区町村名（都道府県）	⑫市区町村名（都道府県）
	⑬市区町村名（都道府県）	⑭市区町村名（都道府県）	⑮市区町村名（都道府県）	⑯市区町村名（都道府県）
	⑰市区町村名（都道府県）	⑱市区町村名（都道府県）	⑲市区町村名（都道府県）	⑳市区町村名（都道府県）
	㉑市区町村名（都道府県）	㉒市区町村名（都道府県）	㉓市区町村名（都道府県）	㉔市区町村名（都道府県）
	㉕市区町村名（都道府県）	㉖市区町村名（都道府県）	㉗市区町村名（都道府県）	㉘市区町村名（都道府県）
	㉙市区町村名（都道府県）	㉚市区町村名（都道府県）	㉛市区町村名（都道府県）	㉜市区町村名（都道府県）
㉝市区町村名（都道府県）	㉞市区町村名（都道府県）	㉟市区町村名（都道府県）	㊱市区町村名（都道府県）	
㊲市区町村名（都道府県）	㊳市区町村名（都道府県）	㊴市区町村名（都道府県）	㊵市区町村名（都道府県）	
㊶市区町村名（都道府県）	㊷市区町村名（都道府県）	㊸市区町村名（都道府県）	㊹市区町村名（都道府県）	
㊺市区町村名（都道府県）	㊻市区町村名（都道府県）	㊼市区町村名（都道府県）	㊽市区町村名（都道府県）	
㊾市区町村名（都道府県）	㊿市区町村名（都道府県）			
都道府県	①都道府県名	②都道府県名	③都道府県名	④都道府県名
	兵庫県			
	⑤都道府県名	⑥都道府県名	⑦都道府県名	⑧都道府県名
	⑨都道府県名	⑩都道府県名	⑪都道府県名	⑫都道府県名
	⑬都道府県名	⑭都道府県名	⑮都道府県名	⑯都道府県名

（都市型・地方型の区分）

都市型

3. 「特定の地域」に主たる所在地がある大学等の数

- ・上記2で設定した地域内に大学等の主たる所在地がある国公立大学・短期大学・高等専門学校数
- ・「地域カバー率」は、共通設問⑤の「地域におけるPF参画大学等の割合」を指します。

区分	総数	地域内の参画大学数	
特定の地域内の私立大学等 (私立大学・短期大学・高等専門学校)	44	32	4 (ロ) の値
特定の地域内の国立大学等 (国立大学・短期大学・高等専門学校)	5	7	4 (ハ) の値
特定の地域内の公立大学等 (公立大学・短期大学・高等専門学校)	3		
	(A)	(B)	地域カバー率 (C) = (B) / (A)
合計	52	39	75.00%

4. プラットフォーム参画大学等一覧
【私立】

	①学校番号		②私立大学等名称 (正式名称)	③大学等の主たる 所在地 (都道府県・市区町村名)	④地域内のキャンパス名 *複数ある場合は一つ記入 *キャンパスが分かれてい ない場合は「本部」と記入 *特定の地域内にキャンパ ス等がない場合は空欄	⑤④のキャンパス所在地 (都道府県・市区町村名)	⑥ 特定の地域内か		⑦ P F 型 申請
	法人番号	学校コード					主たる 所在地	キャン パス	
1	281001	A01	芦屋大学	兵庫県芦屋市	六麓荘キャンパス	兵庫県芦屋市	○	○	▼
2	271012	A01	大手前大学	兵庫県西宮市	さくら夙川キャンパス	兵庫県西宮市	○	○	▼
3	271012	B01	大手前短期大学	兵庫県西宮市	本部	兵庫県西宮市	○	○	▼
4	281021	A01	関西国際大学	兵庫県三木市	三木キャンパス	兵庫県三木市	○	○	▼
5	271032	A01	関西福祉大学	兵庫県赤穂市	本部	兵庫県赤穂市	○	○	▼
6	281004	A01	関西学院大学	兵庫県西宮市	西宮上ヶ原キャンパス	兵庫県西宮市	○	○	▼
7	281004	B01	聖和短期大学	兵庫県西宮市	西宮聖和キャンパス	兵庫県西宮市	○	○	▼
8	281006	A01	甲南大学	兵庫県神戸市東灘区	岡本キャンパス	兵庫県神戸市東灘区	○	○	▼
9	281007	A01	甲南女子大学	兵庫県神戸市東灘区	本部	兵庫県神戸市東灘区	○	○	▼
10	401004	A03	神戸医療未来大学	兵庫県神崎郡福崎町	姫路キャンパス	兵庫県神崎郡福崎町	○	○	▼
11	281003	A01	神戸海星女子学院大学	兵庫県神戸市灘区	本部	兵庫県神戸市灘区	○	○	▼
12	281009	A01	神戸学院大学	兵庫県神戸市中央区	ポートアイランドキャンパス	兵庫県神戸市中央区	○	○	▼
13	271022	A02	神戸芸術工科大学	兵庫県神戸市西区	本部	兵庫県神戸市西区	○	○	▼
14	281016	A01	神戸国際大学	兵庫県神戸市東灘区	本部	兵庫県神戸市東灘区	○	○	▼
15	281011	A01	神戸松蔭女子学院大学	兵庫県神戸市灘区	本部	兵庫県神戸市灘区	○	○	▼
16	281008	A01	神戸女学院大学	兵庫県西宮市	本部	兵庫県西宮市	○	○	▼
17	281017	A01	神戸女子大学	兵庫県神戸市須磨区	須磨キャンパス	兵庫県神戸市須磨区	○	○	▼
18	281017	B01	神戸女子短期大学	兵庫県神戸市中央区	本部	兵庫県神戸市中央区	○	○	▼
19	281012	A01	神戸親和女子大学	兵庫県神戸市北区	鈴蘭台キャンパス	兵庫県神戸市北区	○	○	▼
20	281031	A01	神戸常盤大学	兵庫県神戸市長田区	本部	兵庫県神戸市長田区	○	○	▼
21	281031	B01	神戸常盤短期大学部	兵庫県神戸市長田区	本部	兵庫県神戸市長田区	○	○	▼
22	281010	A01	神戸薬科大学	兵庫県神戸市東灘区	本部	兵庫県神戸市東灘区	○	○	▼
23	282004	B01	頌栄短期大学	兵庫県神戸市東灘区	本部	兵庫県神戸市東灘区	○	○	▼
24	281014	A01	園田学園女子大学	兵庫県尼崎市	本部	兵庫県尼崎市	○	○	▼
25	281014	B01	園田学園女子大学短期大学部	兵庫県尼崎市	本部	兵庫県尼崎市	○	○	▼
26	271053	A01	宝塚医療大学	兵庫県宝塚市	本部	兵庫県宝塚市	○	○	▼
27	281029	A01	姫路大学	兵庫県姫路市	本部	兵庫県姫路市	○	○	▼
28	111005	A03	姫路獨協大学	兵庫県姫路市	本部	兵庫県姫路市	○	○	▼
29	281020	A01	兵庫大学	兵庫県加古川市	本部	兵庫県加古川市	○	○	▼
30	281020	B01	兵庫大学短期大学部	兵庫県加古川市	本部	兵庫県加古川市	○	○	▼
31	281018	A02	兵庫医科大学	兵庫県神戸市中央区	神戸キャンパス	兵庫県神戸市中央区	○	○	▼
32	281019	A01	流通科学大学	兵庫県神戸市西区	本部	兵庫県神戸市西区	○	○	▼
33							▼	▼	▼
34							▼	▼	▼
35							▼	▼	▼
36							▼	▼	▼
37							▼	▼	▼
38							▼	▼	▼
39							▼	▼	▼
40							▼	▼	▼

【私立】（続き）

	①学校番号		②私立大学等名称 (正式名称)	③大学等の主たる 所在地 (都道府県・市区町村名)	④地域内のキャンパス名 *複数ある場合は一つ記入 *キャンパスが分かれてい ない場合は「本部」と記入 *特定の地域内にキャンパ ス等がない場合は空欄	⑤④のキャンパス所在地 (都道府県・市区町村名)	⑥ 特定の地域内か		⑦ P F 型 申請
	法人番号	学校コード					主たる 所在地	キャン パス	
41							▼	▼	▼
42							▼	▼	▼
43							▼	▼	▼
44							▼	▼	▼
45							▼	▼	▼
46							▼	▼	▼
47							▼	▼	▼
48							▼	▼	▼
49							▼	▼	▼
50							▼	▼	▼
51							▼	▼	▼
52							▼	▼	▼
53							▼	▼	▼
54							▼	▼	▼
55							▼	▼	▼
私立大学等合計			(イ)				(ロ)	(ハ)	(ニ)
			32				32	32	0

【国立・公立】

	①区分		②国公立大学等名称 (正式名称)	③大学等の主たる 所在地 (都道府県・市区町村名)	④地域内のキャンパス名 *複数ある場合は一つ記入 *キャンパスが分かれてい ない場合は「本部」と記入 *特定の地域内にキャンパ ス等がない場合は空欄	⑤④のキャンパス所在地 (都道府県・市区町村名)	⑥特定の地域内か	
	国公区分	学校種					主たる 所在地	キャン パス
1	国立	大学	国立大学法人神戸大学	兵庫県神戸市灘区	六甲第1キャンパス	兵庫県神戸市灘区	○	○
2	国立	大学	国立大学法人ひょうご教育大学	兵庫県加東市	加東キャンパス	兵庫県加東市	○	○
3	公立	大学	公立大学法人神戸市外国語大学	兵庫県神戸市西区	本部	兵庫県神戸市西区	○	○
4	公立	大学	公立大学法人神戸市看護大学	兵庫県神戸市西区	本部	兵庫県神戸市西区	○	○
5	公立	大学	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学	兵庫県神戸市西区	神戸商科キャンパス	兵庫県神戸市西区	○	○
6	公立	大学	兵庫県公立大学法人芸術文化観光専門職大学	兵庫県豊岡市	本部	兵庫県豊岡市	○	○
7	国立	高専	明石工業高等専門学校	兵庫県明石市	本部	兵庫県明石市	○	○
8	▼	▼					▼	▼
9	▼	▼					▼	▼
10	▼	▼					▼	▼
11	▼	▼					▼	▼
12	▼	▼					▼	▼
13	▼	▼					▼	▼
14	▼	▼					▼	▼
15	▼	▼					▼	▼
国公立大学等合計			(ホ) 7				(ハ) 7	(ト) 7

プラットフォーム参画大学等数	(イ) + (ホ)	(チ) 39	地域内割合 (ヌ) = (リ) / (チ) ※少なくとも75%以上	100.00%
地域内にキャンパス等がある大学等数	(ハ) + (ト)	(リ) 39		

5. プラットフォームに参画する地方自治体

	①地方自治体名 ※市区町村単位の場合には、()で都道府県を付記	②特定の地域内か
1	兵庫県	○
2		▼
3		▼
4		▼
5		▼
6		▼
7		▼
8		▼
9		▼
10		▼
11		▼
12		▼
13		▼
14		▼
15		▼
16		▼
17		▼
18		▼
19		▼
20		▼

6. プラットフォームに参画する産業界等

	①産業界等名 (企業等の支部・支店含む。その場合は支部支店名も含めて記入)	②所在地 (都道府県・市区町村名)	③特定の地域内か
1	兵庫県商工会連合会	兵庫県神戸市中央区	○
2	兵庫県中小企業家同友会	兵庫県神戸市中央区	○
3	兵庫県中小企業団体中央会	兵庫県神戸市中央区	○
4			▼
5			▼
6			▼
7			▼
8			▼
9			▼
10			▼
11			▼
12			▼
13			▼
14			▼
15			▼

作成担当者 学校名・所属・氏名	電話番号

令和4年度 私立大学等改革総合支援事業に係る地方自治体からの意見書
【タイプ3：地域社会の発展への貢献（プラットフォーム型）】

プラットフォーム名称
ひょうご産官学連携協議会

※「プラットフォーム名称」については、申請取りまとめ校にて記載ください。

本意見書は、私立大学等改革総合支援事業（タイプ3（プラットフォーム型））を申請するにあたり必要な書類であり、上記プラットフォームに参画している地方自治体からの意見を聴取させていただきます。なお、本意見書の内容を、選定の際に考慮する場合があります。

以下の各設問に記載ください。

1. 当該プラットフォームと貴地方自治体との関わりについて（令和3年9月1日～令和4年9月30日の実績）		
該当の有無	項目	具体的内容（可能な場合は定量的な記載としてください）
○	協議体制の整備	①令和3年11月12日 ひょうご産官学連携協議会総会で私立大学等改革総合支援事業申請について審議、県受託の「リカレントフォーラム」の開催について及び「ひょうご産官学連携協議会報告会」について報告 ②令和4年3月24日 ひょうご産官学連携協議会にて事業実施状況について報告、令和4年度事業計画について審議 ③毎月定例開催の企画運営委員会（兼）兵庫県との定例会でプラットフォームの運営、リカレント教育等について協議
○	包括連携協定等の締結	令和2年9月1日、令和3年9月1日「私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）」に関する包括連携協定の一部を変更する協定を締結（変更理由：大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の変更） ※本年は変更事項無しのため改定なし
	資金支援	
	人員派遣	
	人事交流	
○	事業・プロジェクトの共同運営	①大学連携組織を活用した県内大学生の地元就職促進事業（令和4年度委託料：5,936千円） ②令和4年度県内企業海外事業展開に係る留学生活用事業（令和4年度委託料：11,498千円） ③リカレント教育推進事業（令和4年度委託料：500千円）
	公開講座等	
2. 貴地方自治体からの当該プラットフォームへの評価		
選択	項目	
A	A 地域の振興に大きく役立っている。	
	B 地域の振興に役立っている。	
	C 地域の振興に今後役立つことが期待できる。	
	D 地域の振興にあまり役立っていない。	
上記を選択した理由【自由記述】		
①当該プラットフォームは、県内の大学・短期大学等の75%が参画している「(一社)大学コンソーシアムひょうご神戸」が中核となり、地域の活性化等の連携事業の実施に向け、本県や産業界と協議し取り進むなど、効率的な運営体制が確立している。 ②本県では、20歳代前半の人口流出が拡大傾向にあり、大学生の就職時点の流出抑制が課題となっている。このため、産業界も加入している当該プラットフォームを活用し、県内企業就職率向上のための事業や県内企業情報の発信など、地元定着のための就職支援事業に取り組み、地域の振興を寄与している。事業計画の策定や推進にあたっては、毎月開催される企画運営委員会に本県担当者が出席するなど県と緊密に連携を図っている。 ③また、令和2年度から（一社）大学コンソーシアムひょうご神戸を中核とする当該プラットフォームのネットワークを活用し、リカレントフォーラムの開催等に取り組んでおり、リカレント教育に対する気運醸成に貢献している。 ④複数大学等の連携によるメリットを生かし、留学生を対象とした県内企業の就職支援事業や、留学生と日本人学生の交流事業を実施し、国際的な視野の育成と、将来の人的ネットワークの形成による地域産業等のグローバル化の推進にも貢献している。		
3. 今後、貴地方自治体が当該プラットフォームに期待する役割【自由記述】		
①当該プラットフォームに参画する各大学が、大学や産業界との連携や大学の垣根を越えた学びの環境の充実を図り、各々の大学の強みや特色を更に強化され、本県の高等教育の総合力や魅力を高めて欲しい。 ②当該プラットフォームの取組を通じて、多くの学生が本県の魅力、ふるさと意識、地域への誇り・愛着等を醸成し、卒業生・留学生在が本県の地域産業の担い手となるなど、地域振興への更なる貢献を期待する。		

地方自治体の方

ご担当者		
所 属	電 話 番 号	氏 名
兵庫県総務部教育課	078-362-3368	丹保 祐一

大学コンソーシアムひょうご神戸
令和4年度 新入生対象 薬物に関する意識調査
報告書

1. 調査の目的
2. 調査の概要
3. 調査の結果
4. 調査のまとめ

令和4(2022)年8月
一般社団法人 大学コンソーシアムひょうご神戸

1. 調査の目的

大学コンソーシアムひょうご神戸では、薬物乱用防止に向けた啓発活動の一環として、薬物に関する学生の知識・関心等の現状を明らかにし、今後の薬物乱用防止策の企画・立案を行うとともに、調査を通じて新しく大学生活を始める新入生に薬物乱用防止の啓発を一層促進することを目的に本調査を実施いたしました。

2. 調査の概要

(1) 調査対象者

大学コンソーシアムひょうご神戸加盟全39校の2022年度入学生

(2) 調査実施方法

- ①PC、タブレット、スマートフォン等を使って、下記の URL もしくは QR コードから回答フォーム(Microsoft Forms)に入って回答していただきました。
- ②回答は1人につき1回のみ(必要時間はおよそ5分間)としました。
- ③回答者を特定できないように氏名の記入欄は設けず、また個人のメールアドレスの収集も行いませんでした。

<アンケート回答フォーム(Microsoft Forms)の URL 及び QR コード>

(3) 調査実施期間

2022年6月30日(木)～7月31日(日)

(4) 調査主体

一般社団法人大学コンソーシアムひょうご神戸

(5) 調査の内容

調査の内容は、次の 23問です。

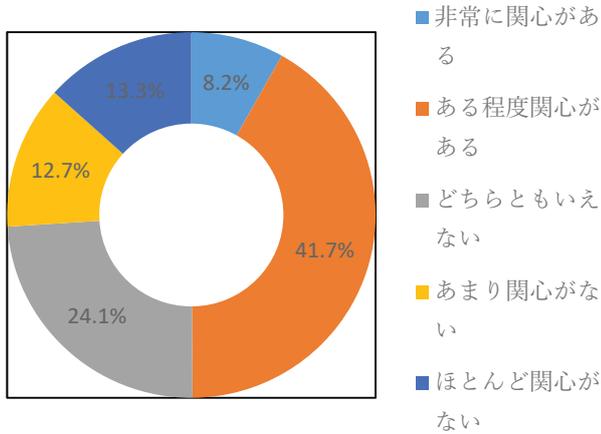
3. 調査の結果

本調査には、大学コンソーシアムひょうご神戸加盟校の全39校の学生、計465名から回答を得ました。

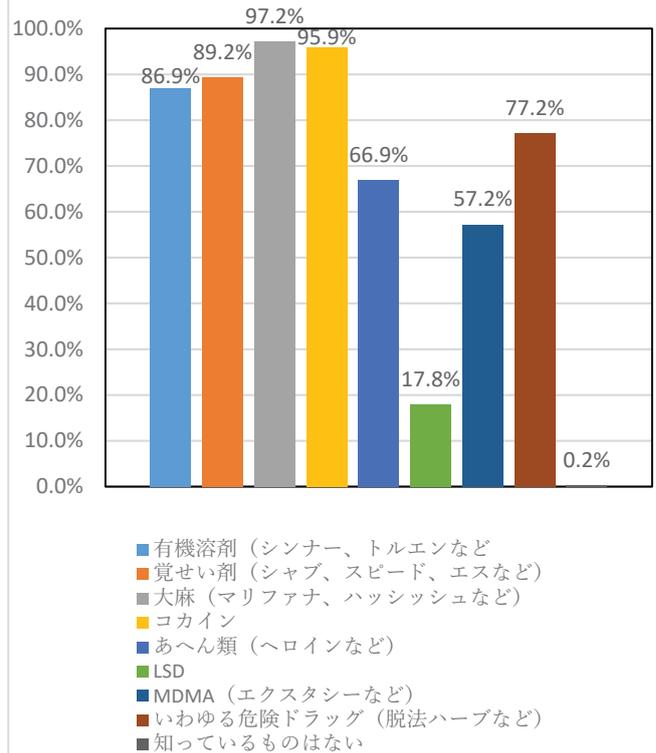
回答校一覧(39校)

明石工業高等専門学校、芦屋大学、大手前大学、大手前短期大学、関西国際大学、関西福祉大学、関西学院大学、聖和短期大学、甲南大学、甲南女子大学、神戸大学、神戸医療未来大学、神戸海星女子学院大学、神戸学院大学、神戸芸術工科大学、神戸国際大学、神戸市外国語大学、神戸市看護大学、神戸松蔭女子学院大学、神戸女学院大学、神戸女子大学、神戸女子短期大学、神戸親和女子大学、神戸常盤大学、神戸常盤大学短期大学部、神戸薬科大学、頌栄短期大学、園田学園女子大学、園田学園女子大学短期大学部、宝塚医療大学、姫路大学、姫路獨協大学、兵庫大学、兵庫大学短期大学部、兵庫医科大学、兵庫教育大学、兵庫県立大学、芸術文化観光専門職大学、流通科学大学

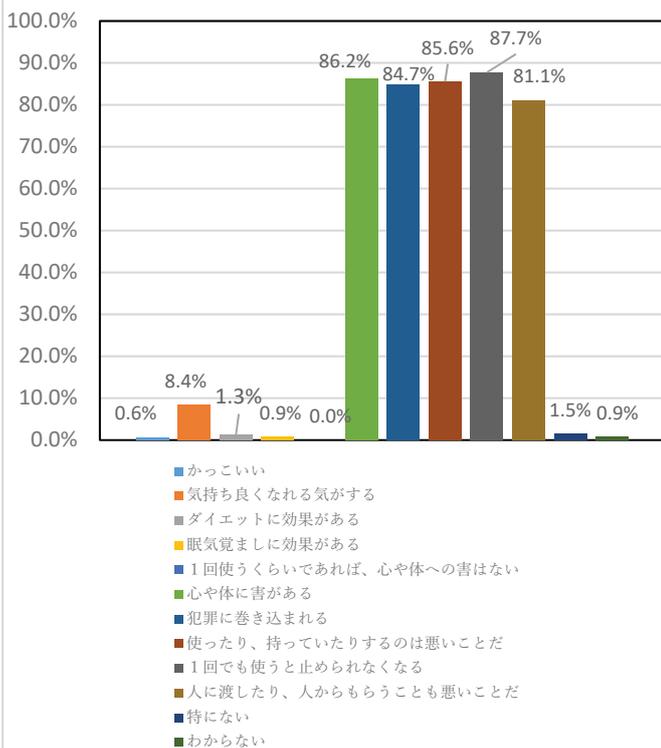
共通質問1) あなたは、薬物乱用問題について関心がありますか。(1つ選択) N=465



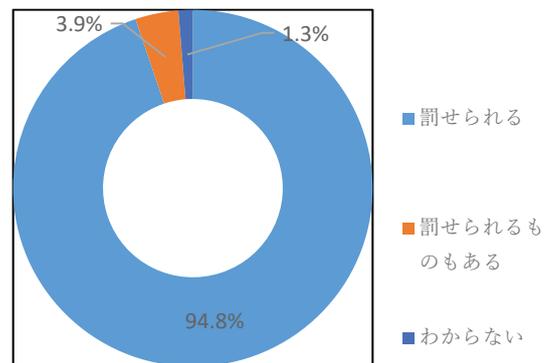
共通質問2) あなたは、次の薬物の名前を知っていますか。(複数選択可) N=465



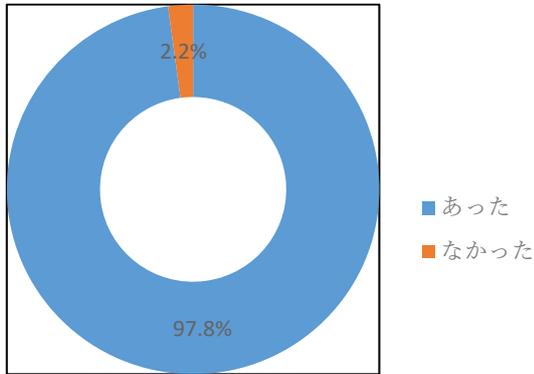
共通質問3) あなたは、これらの薬物についてどのような印象を持っていますか。(複数選択可) N=465



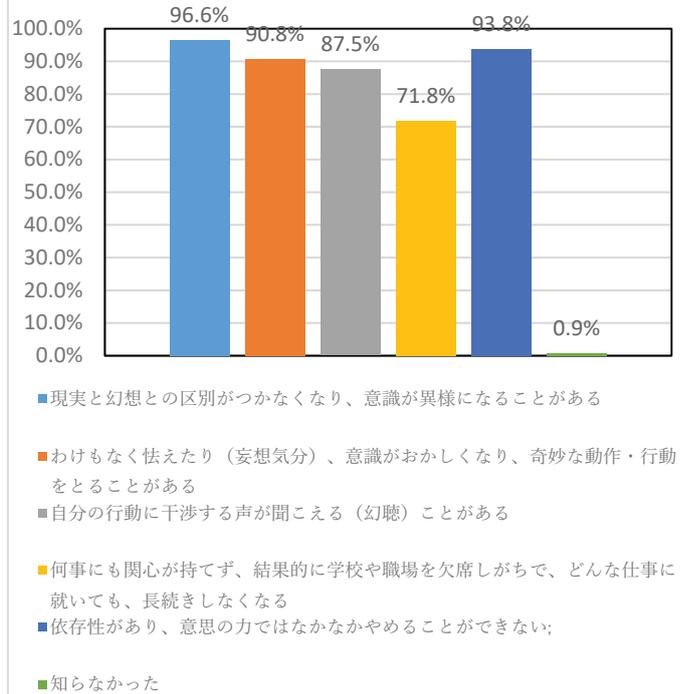
共通質問4) あなたは、これらの薬物を使ったり、持っていたりした場合、また、他人に譲渡したり、譲渡された場合、どうなると思いますか。(1つ選択) N=464



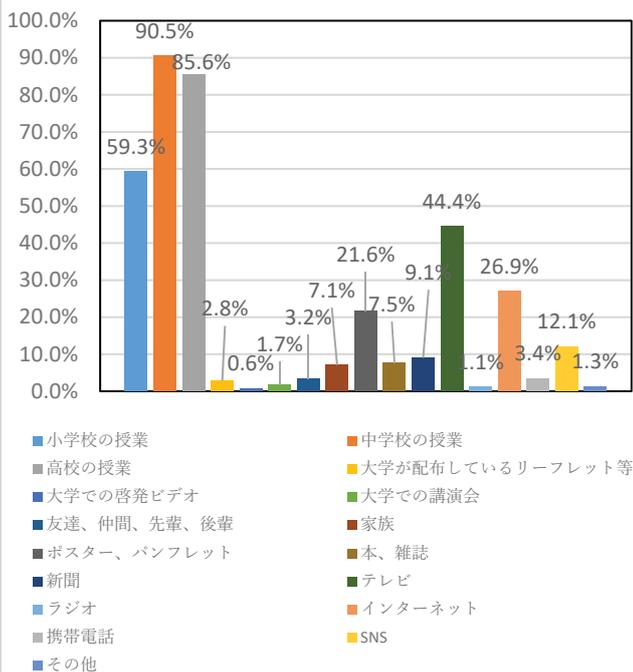
共通質問5) あなたは、これらの薬物について学んだり聞いたりしたことがありましたか。(どちらかを選択) N=464



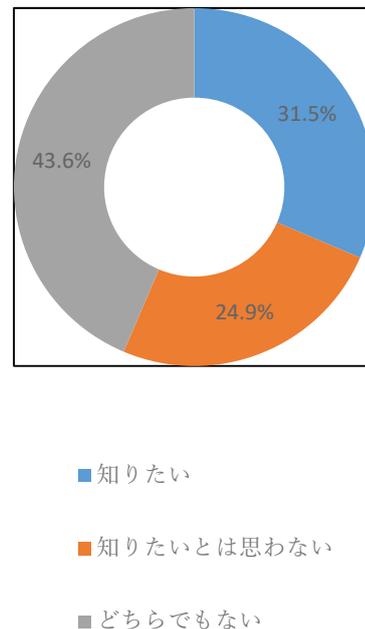
共通質問6) あなたは、薬物を使った場合、以下のようなことがあるのを知っていましたか。N=464



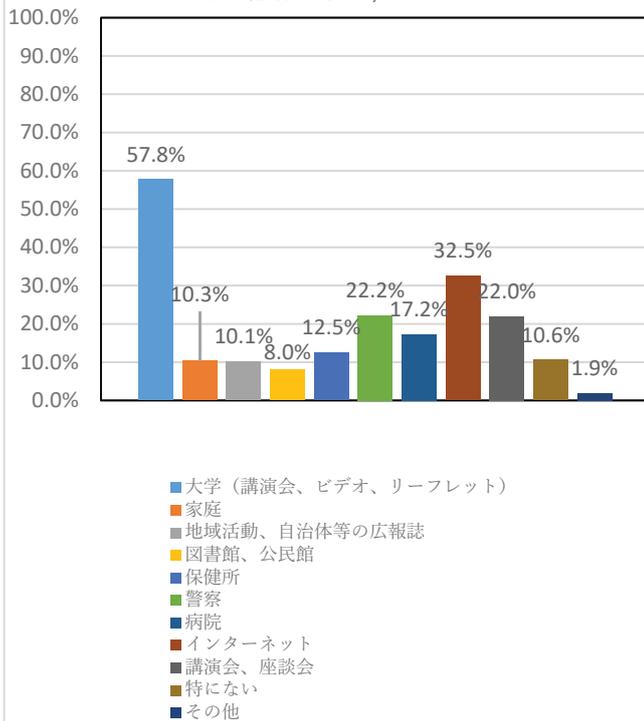
共通質問7) あなたは、これらの薬物について何から情報を得ましたか。(複数選択可)。N=464



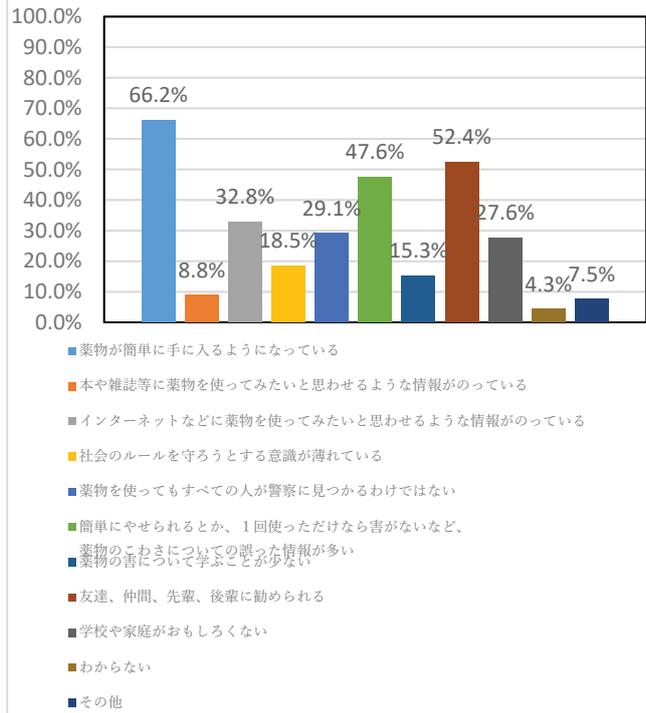
共通質問8) あなたは、これらの薬物を使うことの怖さ(有害性、危険性)をもっと知りたいですか。(1つ選択) N=461



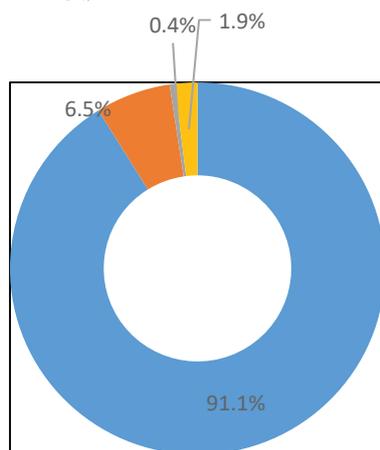
共通質問9) あなたは、これらの薬物を使った場合の害について学ぶとしたらどこがよいと思いますか。(複数選択可)N=464



共通質問10) あなたは、これらの薬物を使う人が増えているのはどのような理由からだと思いますか。(複数選択可)N=464

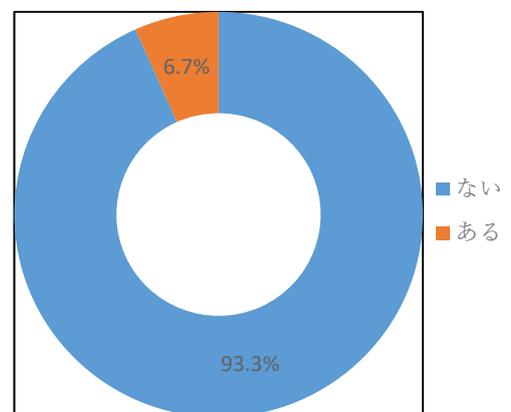


共通質問11) あなたは、これらの薬物を使うことについてどのように考えていますか。(1つ選択) N=463



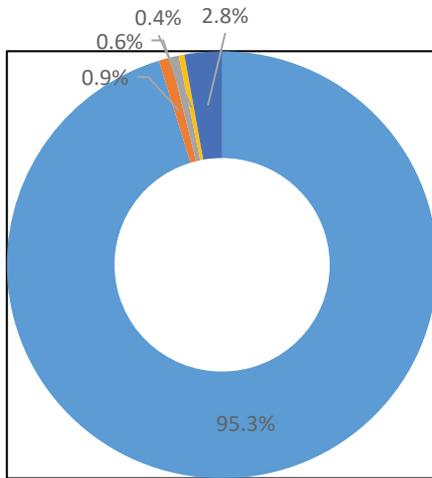
- どのような理由であれ、絶対に使うべきではないし、許されることではない
- 他人に迷惑をかけないのであれば、使うかどうかは個人の自由である
- 1回位なら心や体へ害がないので、使ってもかまわない
- その他

共通質問12) あなたは、これらの薬物が使用されているところを直接見たことがありますか。 <テレビ、映画、報道等で見たものは除きます> (どちらかを選択) N=465



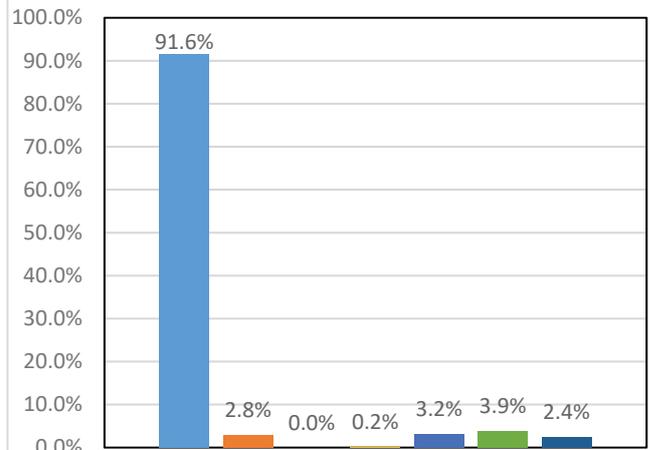
共通質問13) あなたは、これらの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。

(1つ選択) N=464



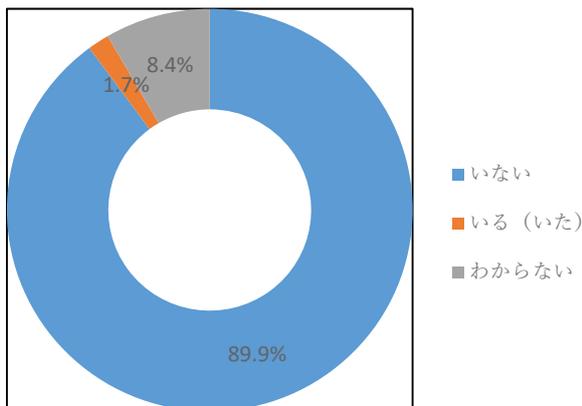
- 誘われたり、勧められたことはない
- 使用を誘われたことがある
- 購入を勧められたことがある
- 無理やり使わされたことがある
- わからない

共通質問14) あなたは、これらの薬物を使用することを誰かに誘われたら、どのように行動しますか。(複数選択可) N=465



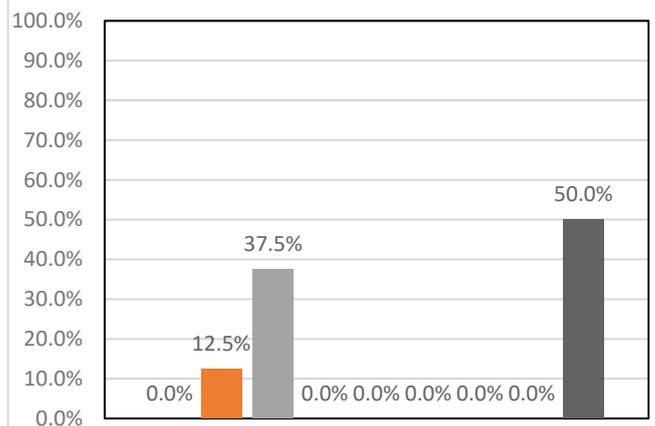
- 誘った相手が誰であろうと、断る
- 誘った相手によっては、断りきれないかもしれない
- 一回くらいであれば体に害がなさそうなので断らないかもしれない
- 好奇心や面白半分から断らないかもしれない
- 悩み事があったり、疲れていたりしたら断らないかもしれない
- わからない
- その他

共通質問15ア) あなたの周囲に、これらの薬物を所持したり、使用している(いた)人がいますか N=465



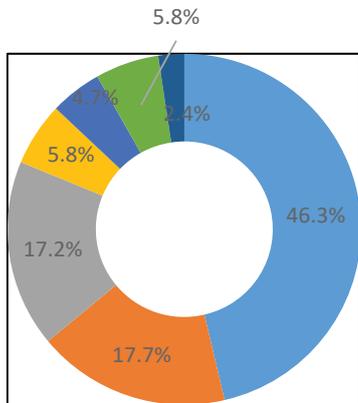
- いない
- いる(いた)
- わからない

共通質問15イ) どの薬物でしたか。(複数選択可) (複数選択可) N=8



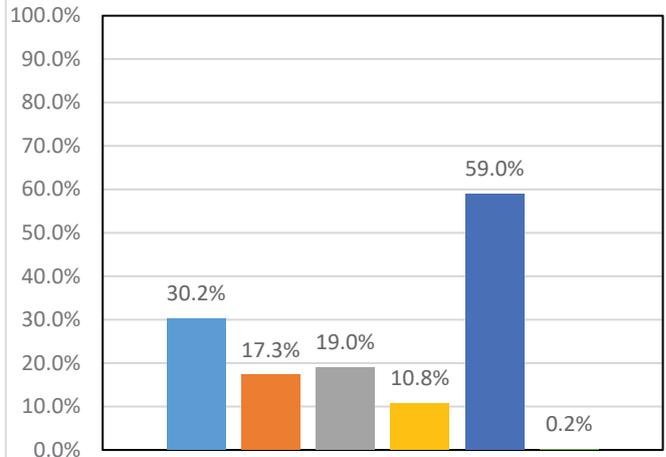
- 有機溶剤(シンナー、トルエンなど)
- 覚せい剤(シャブ、スピード、エスなど)
- 大麻(マリファナ、ハッシュシュなど)
- コカイン
- あへん類(ヘロインなど)
- LSD
- MDMA(エクスタシーなど)
- いゆる危険ドラッグ(脱法ハーブなど)
- わからない

共通質問16) あなたは、もし友人がこれらの薬物を使用していることを知った場合、どうしますか。(1つ選択) N=464



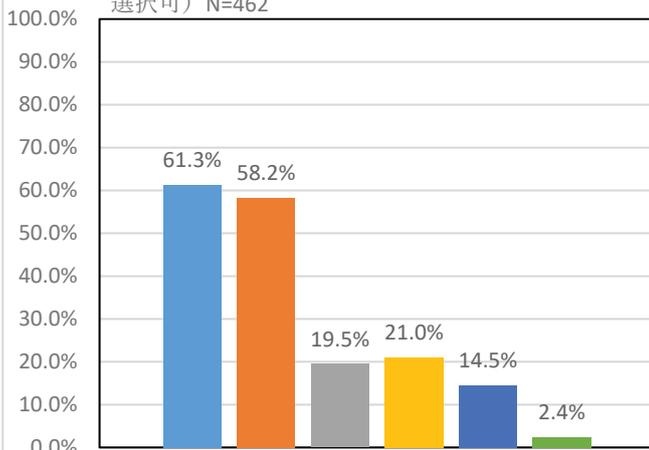
- 使用をやめるよう説得する
- 他の人(先生や友人など)に伝える
- 警察に通報する
- 個人の自由であるので放っておく
- 医療機関や保健所等に連絡する
- わからない
- その他

共通質問17) あなたは、これらの薬物に関する相談窓口があることを知っていますか。(複数選択可) N=463



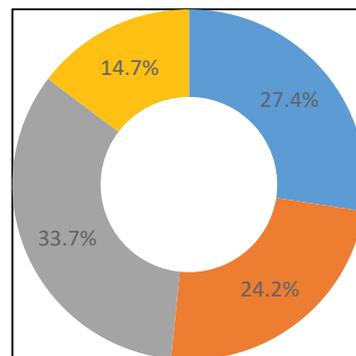
- 警察の相談窓口
- 行政機関の相談窓口(精神保健福祉センター等)
- 医療機関の相談窓口
- 民間の支援団体の相談窓口
- 知らない
- その他

共通質問18) あなたや、あなたのまわりの人がこれらの薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報は何か。(複数選択可) N=462



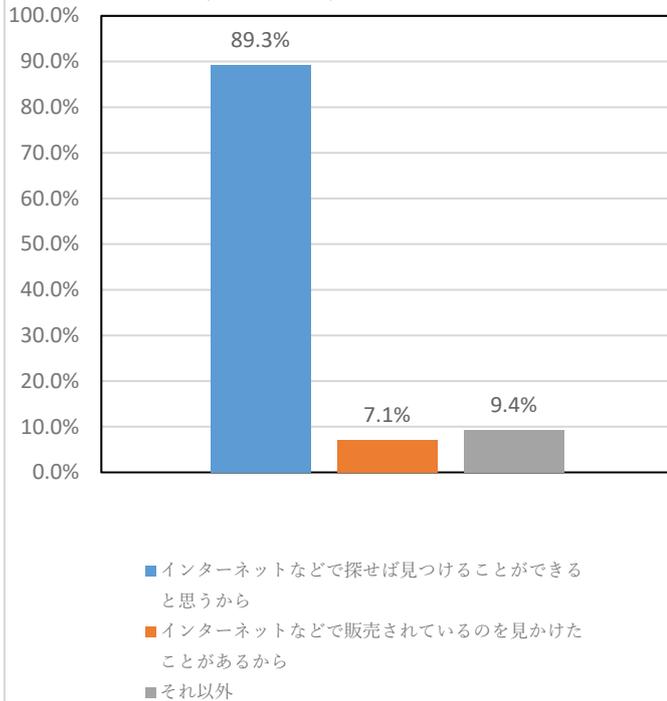
- 薬物乱用による健康被害情報
- 薬物乱用により引き起こされた事件・事故の事例情報
- 国や地方公共団体等の薬物乱用対策情報
- 医療機関や民間支援団体の取り組み情報
- 特になし
- その他

共通質問19ア) あなたは、これらの薬物を入手可能と考えますか。(1つ選択) N=463

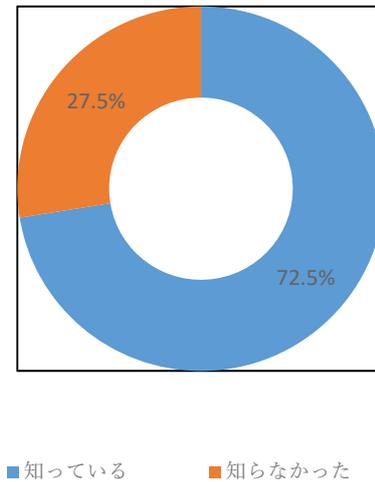


- 不可能だ
- かなり難しい
- 難しいが手に入る
- 手に入る

共通質問19イ) 共通質問19ア) で「難しいが手に入る、または、手に入る」に○をつけた人だけお答えください】入手可能と考えた理由は何ですか。(複数回答可) N=222



共通質問20) あなたは、薬事法の一部改正(平成26年4月1日施行)により、危険ドラッグと称される薬物や商品(脱法ハーブ、合法アロマリキッドなど)の多くが、使ったり、持っていたりすると罰則の対象となる薬物になったことを知っていますか。(1つ選択) N=461



共通質問 19 ウ) 【共通質問 19 イ) で「それ以外」に○をつけた人だけお答えください】それ以外に入手可能と考えた理由は何ですか。入手可能と考えた理由は何ですか。

- ・ youtuber がネットで薬物販売者と会って通報していたから
- ・ アメリカ村に出回っているという噂があるから
- ・ インターネットで簡単に手に入れた事例を聞いた。
- ・ どこそで売っている、と聞いたことがあるから。
- ・ 簡単に取引がされている
- ・ 芸能人で覚せい剤などを使っている人がいた。また、警察の講演会で入手ルートが先輩であると答えた人が多いと聞いた。
- ・ 健康になれるなどと騙して押し付けられた例を Twitter で見たから
- ・ 古着屋などで取引がされていたりすることもあるというのを何かで見かけたことがあるから。
- ・ 講演会やパンフレットなどで、インターネットで簡単に手に入るようになっている上に、偽名で出品されているから排除されきっていない、ということを知かされているから。またそれが警察関係者の方だったので、実際にそうなんだろう、と考えるから。
- ・ 高校の近くの商店街に売られていると先生と近くに住んでいた友達に聞いたことがあるから。
- ・ 高校生や中学生が使っているというのをニュースで見て、簡単に手に入るんだなと思ったから。
- ・ 使っている友達・または先輩経由の入手、ヤクザ関連、受け子

- ・ 姉の友人が販売しているところをみたことがあるから
- ・ 実際に使っている人が多く存在するから
- ・ 実際に手に入れて使っている有名人がいるから。
- ・ 知り合いからの紹介で手に入れている人が多そうと思ったから。
- ・ 知り合いを通じて口コミ
- ・ 入手可能であろう某繁華街が存在するから。
- ・ 繁華街などで販売している場所を知っているから
- ・ 友人を通して手に入れられる話を聞いたことがあるから
- ・ 路上でも売っている人はたまにいるから(大阪や姫路などの都会の路地裏など)

4. 調査のまとめ

- ◆薬物乱用問題については、回答者の半数が何らかの関心を示している。
- ◆薬物のうち、有機溶剤、覚せい剤、大麻、コカインやあへん類については、は回答者の大多数が当該薬物名を知っていた。
- ◆薬物の印象については、大多数の回答者が心や体に害があるなどのネガティブな印象を有している。
- ◆薬物の使用や所持については、大多数の回答者が罰せられることを認識している。
- ◆薬物を使用した場合に現出する症状等についても大多数の回答者が認識している。
- ◆薬物については、大多数の回答者が初等中等教育で情報を得ていた。
- ◆薬物を使用した場合の害については、半数の回答者が大学で学ぶ方がよいとしている。
- ◆薬物使用者が増えている理由として、7割近くの回答者が薬物が簡単に入手できるからと回答している。
- ◆薬物使用については、大多数の回答者がどのような理由であれ、絶対に使用すべきではないと回答している。
- ◆薬物の使用や購入の勧誘については、大多数の回答者は誘われたり、勧められたりしたことはないが、ごく少数の回答者が使用や購入の勧誘を受けていた。
- ◆薬物の使用の勧誘を受けた場合、大多数の回答者が誘った相手が誰であろうと断ると回答している。
- ◆友人が薬物を使用していることを知った場合、半数の回答者が使用をやめるよう説得すると回答している。
- ◆薬物の相談窓口については、半数以上の回答者が知らないと回答している。
- ◆薬物に手を出さないように注意するために知りたいと思う情報については、薬物乱用による健康被害情報と引き起こされる事件と回答している。
- ◆薬物が入手可能かどうかについては、半数の回答者が入手可能と回答しており、その理由としては、インターネットを手段として入手できるとしている。

まとめ

以上の調査結果から、今後、各大学で取り組む課題として、薬物を使用した場合の害と薬物の相談窓口についての情報提供が必要であると考えられます。

共同 IR の実施結果の地元産業界との共有および改善の協議等について

1. 兵庫県商工会連合会

(1) 日時；2022年8月8日（月）15：00～15：30

(2) 場所；兵庫県商工会連合会

(3) 出席者；

① 兵庫県商工会連合会 事業部 広域指導センター

・所長 辰巳 博計 氏

・主事 山本 裕香 氏

② 大学コンソーシアムひょうご神戸 大濱、小畑

(4) 内容；

◆小畑より「大学コンソーシアムひょうご神戸 令和4年度 新入生対象 薬物に関する意識調査報告書」の概要について説明。

◆辰巳氏より、薬物に関する意識調査質問項目13『薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。』について、2名が『無理やり使わされたことがある』と回答しているとともに、『購入を勧められたことがある』と『使用を誘われたことがある』を加えると465名の総回答者の1.9%を占めていることは驚きであると共に深刻な状況であるとのコメントをいただいた。さらに、薬物に関する意識調査を継続的に実施することが大切であり、調査対象を新入生のみに限らず全学年の学生にすることも必要ではないかとのコメントも併せて頂いた。

2. 兵庫県中小企業団体中央会

(1) 日時；2022年8月9日（火）9：00～9：30

(2) 場所；兵庫県中小企業団体中央会

(3) 出席者；

① 兵庫県中小企業団体中央会

・事務局長 内田 雅康 氏

② 大学コンソーシアムひょうご神戸 大濱、小畑

(4) 内容；

◆小畑より「大学コンソーシアムひょうご神戸 令和4年度 新入生対象 薬物に関する意識調査報告書」の概要について説明。

◆内田氏より以下のコメントを頂いた。

・こちらの薬物については、何か強い問題意識をもたれた方がいらっしゃるのですか。

・誘われた方がいるという事ですが、全体通して2%というのは、学生としてはそのくらいの数字なのでしょう。⇒かなりの割合であると思われます。

・新入生を対象だけではなく、対象を広げたいかがでしょうか。

・学生にもこの結果をフィードバックされて、窓口を教えてあげたらどうか。

⇒学生にも意識調査結果をフィードバックするために、大学コンソーシアムのHPで公開します。

・具体的な窓口はどこになるのか。⇒通常各大学内に相談窓口を設けています。

3. 兵庫県中小企業家同友会

(1) 日時；2022年8月9日（火）10：00～10：40

(2) 場所；兵庫県中小企業家同友会

(3) 出席者；

① 兵庫県中小企業家同友会

・事務局 内橋 秀明 氏

② 大学コンソーシアムひょうご神戸 大濱、小畑

(4) 内容；

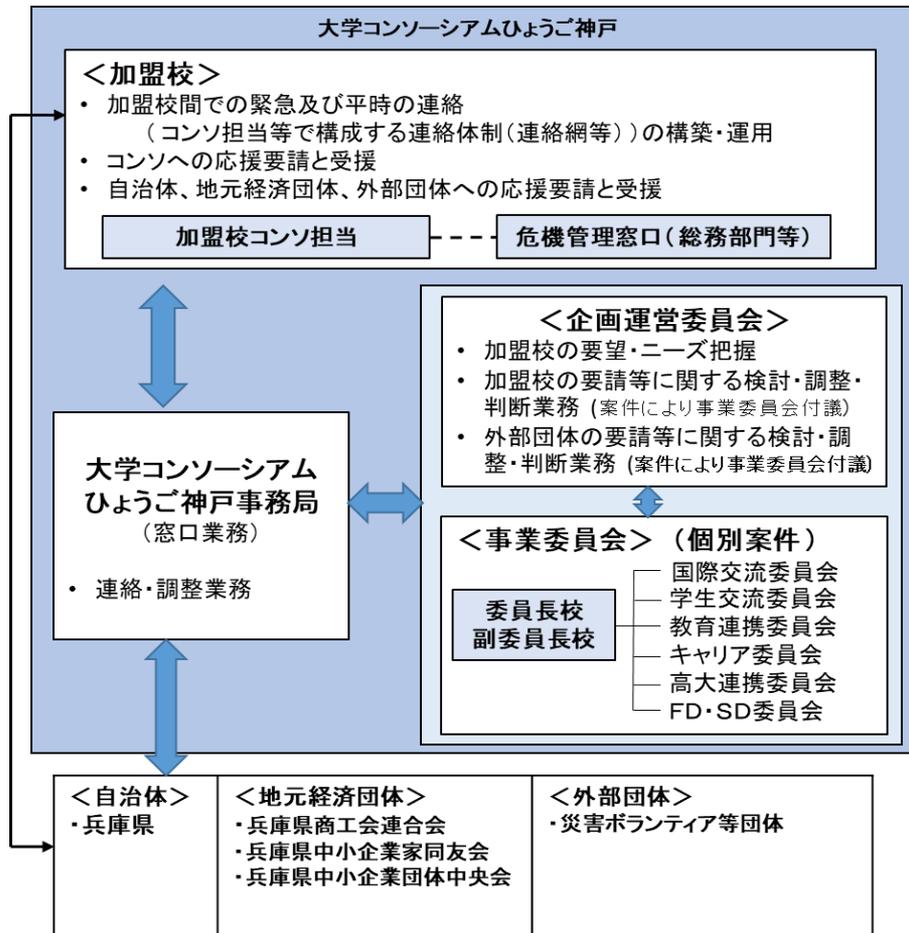
◆小畑より「大学コンソーシアムひょうご神戸 令和4年度 新入生対象 薬物に関する意識調査報告書」の概要について説明。

◆内橋氏より以下のコメントを頂いた。

- ・なぜ薬物に限定して？それだけ深刻な状況なのか。
 - ・関関同立で薬物に関する先行調査の実績があるのなら調査結果の分析があるのではないか。
 - ・本意識調査を何のためにやっているのか。本当に学生の事を考えて、リアルに伝えて啓発する必要があるのではないか。
 - ・13『薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたりすることが、これまでにありましたか。』について、回答者の約2%が有ると回答しており、約2%というのは、すごい数だと思う。1度薬物を使用したらやめれなくなるという事を伝えることが大切ではないか。
 - ・本調査項目では学生に対してはリアリティーがない。我が校の1年生にこういうことがあったという具体例をあげて薬物の使用の恐ろしさをリアルに伝えることが大事である。
 - ・「薬物の使用した学生がたとえ少数であっても、学生のために撲滅しなければならない」という大学コンソーシアムとして、決意と姿勢が必要ではないのか。
 - ・コロナ禍でリモートになり、友達もできない、レポート出せといわれてもついていけず、大学を退学しようかと思う学生が増えているなど、そのような学生が、今後、就職活動して社員として入ってくるのであれば、企業側としこのようなことに注意しなければならないというような意識調査であれば産業界として意見も出しやすい。
 - ・薬物の使用よりも宗教団体、マルチ商法、詐欺等の方がもっとリアリティーがあり、何も分からない新入生に対して意識啓発を図る意味で有益ではないのか。
- 何も分からず相談できる友達もいない状況の新入生が宗教団体、マルチ商法、詐欺等に巻き込まれる可能性があるのではないか。
- ・薬物の意識調査を上位年次生に行っても、もう既に薬物に手を出している学生はそもそも意識調査に回答しないし、学生生活に慣れている上位年次の学生に対して行っても手遅れではないか。そのことから新入生を対象に意識調査を行う意義があるのではないか。
 - ・薬物に手を染めたら、前科を負ってしまい、社会的に将来どうなるのかをきっちりイメージ伝えてあげる必要があるのではないか。
 - ・大学コンソーシアムは39校の大学等が加盟しており、規模的にもアドバンテージがある。せっかく、大学コンソーシアムでやるのであれば、今大学で何が問題なのか大学から情報収集して、コンソとして取り組むべきではないか。
 - ・各大学には統計学の先生もおられると思われるので、専門家の協力も仰いではどうか。

以上

- 大学コンソーシアム神戸及びひょうご産官学連携協議会では緊急時に備えて、加盟校間・自治体・地元経済団体等と相互に連絡・連携できるよう「緊急時連絡・連携体制図」を整える。
- 具体的には、連携団体間で連絡網(コンソ担当等を登録)を作成し、共有・運用する。
- 体制図に基づく連絡網は、緊急時だけでなく平時にも活用すると共に、本連絡・連携体制図に基づき、加盟校のニーズに応じた、大学間連携におけるリスクマネジメントのあり方を継続的に検討する。



<緊急時連絡・連携体制の考え方>

※ 平時にも使用可能

- 想定外事象を対象
(Ex.) 自然災害、感染症等
- 連携内容
(加盟校のアンケート結果より)
 - ① 大学間の連絡体制
緊急連絡、安否確認、情報受発信
 - ② 学びの継続
施設・設備の相互利用
 - ③ 物資の共有
医療物資、飲料等

[緊急時連絡・連携体制図について（概要）]

- 自然災害、感染症等の想定外事象を対象としつつも、平時にも使用可能な体制とする。
- 大学コンソーシアムひょうご神戸の連絡・連携図は、企画運営委員会、各事業委員会の現行体制を活かした緊急時及び平時の体制づくりを目指す。
- 当面は、現行の大学コンソーシアムひょうご神戸の仕組みを活かして、危機管理体制強化のためのリスク・コミュニケーション、学びの継続、ボランティア活動等支援のための連絡・連携体制を整備・運用し、緊急時対応訓練等によって、緊急時対応能力の向上・維持に努めるものとする。
- 自治体・地元経済団体・外部団体と大学コンソーシアムひょうご神戸との組織間での地域連携を図る。
- 具体的な連携内容は、「リスクマネジメント体制に関するアンケート(調査期間:2022.5.22～6.20)」結果より、
①大学間の連絡体制（緊急連絡、安否確認、情報受発信） ② 学びの継続（施設・設備の相互利用）
③ 物資の共有（医療物資、食料・飲料等）とする。

〈 加盟校 〉

- 加盟校は、通常の窓口である「コンソ担当」(または、コンソ担当を介して「災害時緊急対応窓口(総務部門等)」)から、コンソ事務局に連絡・相談を行い、加盟校間で情報共有を図る。
- コンソ担当等で構成する連絡体制(連絡網等)の構築・運用を図る。
- 加盟校の状況・要望を反映して、現在の「コンソ担当」とは別の「災害時緊急対応窓口(総務部門等)」の個別登録の必要性があれば検討し、平時の連絡にも使用できる名簿として活用する。

〈 企画運営委員会 〉

- 企画運営委員会が中枢機能を果たし、コンソ事務局に集まっている様々な災害情報などを大学コンソーシアムひょうご神戸の組織として整理・検討し、理事会への附議や各事業委員会への事案対応依頼などを行う。

〈 事業委員会 〉

- 企画運営委員会で協議し、各事業委員会としての活動の範疇に含まれると判断した事案について対応する。

〈 コンソ事務局 〉

- 窓口は「コンソ事務局」に一本化し、加盟校及び外部機関との連絡・調整業務を実施する。
- 企画運営委員会、事業委員会の決定事項は、全てコンソ事務局を經由して通知する。

リスクに関する情報連絡会の開催について

2022.9.30

[開催趣旨]

- ・ 緊急時に備えて、加盟校間・自治体・地元経済団体等と相互に連絡・連携できることを目指して「リスクに関する情報連絡会」を開催する。
- ・ 大学コンソーシアムひょうご神戸の「緊急時連絡・連携体制図」「連絡網」の具体的な運用方法を策定する。
- ・ さらに、対象とする緊急時の連携内容・方法等について、大学間の垣根を越えて自由に意見を交換する場（リスクに関する情報連絡会）を新たに設ける。
- ・ 加盟校間、自治体、地元経済団体、外部団体等で情報を共有し、対話や意見交換を行い、意思の疎通（リスクコミュニケーション）を図り、意見が纏まったものから順次、企画運営委員会へ報告し、委員会の議論を経て、大学間連携に求められるリスクマネジメント体制を形成することとしたい。

[検討内容]

事務局で想定する検討課題は以下のとおり。

- ◆ 連携団体間で連絡網（コンソ担当等を登録）を作成、運用する。まずはコンソ担当の連絡網を作成する、加盟校の要望により危機管理部門担当者の追加も可能とする
- ◆ 「リスクマネジメント体制に関するアンケート(調査期間:2022.5.22～6.20)」結果を踏まえて、連携内容は以下の通りとし、その具体的な連携方法と運用等の具体について検討する。
 - ① 大学間の連絡体制（緊急連絡、安否確認、情報受発信）
 - ② 学びの継続（施設・設備の相互利用）
 - ③ 物資の共有（医療物資、食料・飲料等）なお、安否確認システムなど、現状におけるシステムの整備・運用状況について情報交換も行う。
- ◆ 自治体・地元経済団体・外部団体と大学コンソーシアムひょうご神戸との組織間での地域連携を図るため、具体的な取り組み先・取組み方法等について検討する。
- ◆ 必要に応じて、緊急時対応訓練等、緊急時対応能力の向上・維持方法について検討する。
- ◆ リスクの定期的な評価・点検の実施方法について検討し、企画運営委員会に報告・審議して、その結果を運用する。
- ◆ その他、他コンソ・大学等におけるリスク情報を収集し、共有する。

[情報連絡会の構成メンバーの募集]

「リスクマネジメント体制に関するアンケート(調査期間:2022.5.22～6.20)」において、WG への参画の可能性を尋ねた経緯があるが、検討課題が変わったことから、改めて情報連絡会としてメンバーを募集することとしたい。

[情報連絡会の開催頻度]

概ね3カ月に1回程度の開催を予定している。

令和4年度 災害救済ボランティア活動支援関係団体連絡会議

日時：令和4年10月7日（金）

14:00～16:00

場所：神戸クリスタルタワー3階クリスタルホール

1 開 会

→直近の取組として、災害訓練などの情報提供・共有や会議の開催、訓練等の参加報告及び、災害発生時のボランティアの受入体制整備、ボランティア活動支援関連団体からの災害時の支援についての説明があった。

2 講 義

「地域資源を活用した災害復旧・復興の取り組みについて」

講師 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授 坂本 真由美 氏

→テーマは、避難所外被災者支援、特に子育て環境の整備、震災孤遺児・孤児への支援。被災後の生活設備の整備支援について。被災者支援コーディネートについて講義がなされた。

3 事例発表**(1) 県域団体・生活協同組合コープこうべ**

「被災地支援と減災の取り組み」

地域活動推進部 組織運営推進 総括 藤原 智子 氏

→「ハート募金」による被災地支援の実績、減災の取り組みとして、災害時の調理とポリ袋を活用した料理の紹介について説明があった。

(2) 中間支援 NPO 等：(特非) あしや NPO センター

「ヒト・モノ・カネ・情報等の資源を活用した災害への取り組みと被災地支援計画」

二宮 毅行 氏

→あしや NPO センターでの防災の取り組みとして防災倉庫の周知活動について説明があった。

(3) 災害救援・復興専門 NPO 等：(認定) 日本災害救援ボランティアネットワーク

「防災・減災をキーワードにしたまちづくり～まちごと防災セミナーのご案内～」

理事長 檜垣 龍樹 氏

→自治会・町内会などの「まちごと」の防災対策の重要性について説明があった。

4 情報提供**(1) 全国社会福祉協議会の災害ボランティアに係る直近の動向等について**

・兵庫県社会福祉協議会地域福祉部 部長 福本 良忠 氏

(2) 赤い羽根共同募金の取り組みについて

兵庫県共同募金会 事務局長 戸田 達男 氏

(3) 今年度の「大規模災害を想定した災害ボランティア連携訓練」について**5 閉 会**